

事業報告書

1. 法人本部拠点

1. 法人内事業所と事業内容

○第二種社会福祉事業

事業所名	事業内容
介護老人保健施設ルミナス大府	入所により在宅復帰を目指し、リハビリを中心とした看護、介護サービスを提供している。 また、在宅の高齢者が通いによる身体機能の維持、向上に向けたサービスを提供している。
グループホーム・ルミナス大府	認知症を発症した高齢者の方々が、少人数で共同生活を営むための介護サービスを提供している。
認知症介護研究・研修大府センター	認知症介護に関する実践的な研究と認知症介護に関する指導者の養成を行っている。
障害者福祉施設サンサン大府	障がいのある方の社会生活の自立に向けた就労支援サービスを提供している。

2. 役員会等の開催

○理事会

日時	審議事項
R04.06.08	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業報告及び決算報告について 理事の選任候補者(案)の提案について 定時評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R04.12.07	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第1次補正予算(案)について 育児・介護休業規程の一部改正(案)について 評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R05.02.22	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第2次補正予算(案)について 役員等報酬及び費用弁償規程の一部改正(案)及び定款の一部改正(案)について 旅費規程の一部改正(案)及び就業規則の一部改正(案)について 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)について 評議員会の開催日時及び場所、議題等について

○評議員会

日時	審議事項
R04.06.29	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業報告及び決算報告について 理事及び監事の選任候補者(案)について
R04.12.21	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第1次補正予算(案)について
R05.03.08	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第2次補正予算(案)について 役員等報酬及び費用弁償規程の一部改正(案)及び定款の一部改正(案)について 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)について

3. 監査の実施

監査名	日 時	実 施 内 容
年次監査	R04. 05. 19	・ 令和 3 年度事業報告、決算報告の検査
定例監査	R04. 08. 10 R04. 11. 16 R05. 02. 07	・ 事業進捗状況検査、月次出納検査

4. 本部主催行事

行事名	日 時	人数等	実 施 内 容
辞令交付式	R04. 04. 01	6 名	新規採用職員並びに昇格職員等に辞令交付を行った。
永年勤続職員 表彰式	R04. 04. 01	8 名	勤続期間が 20 年（4 名）、10 年（4 名）を経過した職員に表彰状及び記念品を授与した。
新規採用職員 研修	R04. 04. 05	8 名	新規採用職員（前年度中途採用職員も含む）に法人の成り立ち、法人の理念や社会人としての基本姿勢、職業倫理等について、法人内職員が講師となり基礎的な研修を行った。

2. ルミナス大府拠点

1. 総括

(1) ルミナス大府拠点の運営状況

- ①介護老人保健施設ルミナス大府は、目標入所率 95%に対して実績は 95.16%でした。
6月と11月に老人ホームへの入所や急な入院等の影響で92%台と落ち込みましたが、8月～10月、1月～2月は95～98%で推移しました。
介護老人保健施設の役割である在宅支援機能を一定の基準で満たしたため、年間を通して在宅復帰・在宅療養支援機能加算を算定することができました。
- ②通所リハビリテーションは、目標1日平均32人に対して29.9人でした。内訳は1日コース25.2人、短時間コース4.7人でした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により8月と12月に計8日間の営業中止となり、計245人が欠席されました。感染症の影響による欠席者は合計466人（前年度より+220人）でした。
- ③グループホームの入居率は98%でした。7月、10月、11月に3人の方が退所されましたが、併設の老人保健施設、協力医療機関等と連携し、新規入居をスムーズに進めることができました。

(2) 今年度も科学的介護情報システム「LIFE」に取り組みました。ICT 機器を充実し、厚生労働省へデータの提供を行いました。

(3) 事故・感染に関するリスクマネジメントに取り組みました。

- ①身体拘束マニュアル・高齢者虐待防止マニュアル及び事故防止マニュアルを一体化し、安全推進マニュアル2022としました。感染防止マニュアルは総論・各論・新型コロナウイルス感染症・事業継続計画を含んだ内容に改訂しました。
- ②転倒事故の発生数は、3年度97件のところ、今年度は44件と減りました。
- ③食堂のスクール形式、換気、食事時のフェイスシールド、消毒液ポーチを配布し、感染対策を徹底しました。職員も食事は一人で行うこと、ステーション内の清掃・消毒に努めました。

(4) 家族への「満足度アンケート」の結果、「普通以上」の評価 90%以上は、今年度も到達しました。アンケート結果に対するフィードバックの掲示も行いました。 最も要望が多い対面面会の再開につきましては、コロナの感染者数の減少のタイミングで2月27日から再開しました。

(5) 低栄養状態（ALB 3.0 未満）のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました。栄養補助食品の提供により 33%の方が改善しました。

(6) 訪問歯科診療が週3回行われています。口腔ケアと嚥下機能評価を実施し、口腔機能の維持と肺炎防止に向けて取り組みました。

(7) 薬剤師と連携してポリファーマシーの改善に向けて取り組んでいます。1人あたりの平均処方薬剤数は3.9剤でした。月平均処方回数は69.9回であり、月3回の薬剤カンファレンスで技術料を削減することができました。

- (8) 各種委員会を毎月開催し、質の高いサービス提供に努めました。
今年度は新たに2つの委員会を新設しました。
- ①ICT 委員会では介護ロボットの導入に向けた検討会の開催、施設内 Wi-Fi 設備の充実化、国立長寿医療研究センターの伴走支援による業務効率に向けた手順書の作成を行いました。
 - ②BCP 委員会では大規模な自然災害に備え、業務継続のために平時からの準備体制の整備及び発生した際の利用者と職員の安全確保と被害を最小限にとどめて事業を継続することを目的とし、BCP を作成しております。
 - ③新型コロナウイルス感染症に対しては、感染管理委員会を毎月に加え適宜開催し、感染対策を徹底するとともに施設独自の感染マニュアルを基準として取り組み、感染対策を実施しました。厚生労働省の感染対策による補助金を活用し、感染対策をさらに徹底しました。
- (9) 無資格の職員に対する受講支援を行いました。介護職員初任者研修 2 人、介護職員実務者研修 1 人が受講し、資格を取得しました。
- (10) ホームページと機関紙等を活用した PR 活動を促進しました。広報委員会がホームページを管理し、更新頻度を上げ、内容を充実したことで閲覧件数が伸びました。
- (11) 地域貢献事業では「認知症伴走型相談支援事業」、「認知症カフェくちなし」を実施しました。
- ①認知症伴走型相談支援事業「認知症なんでも相談所」を大府市の委託事業として、法人内に開設しました。営業日は毎週月、水、金曜日の 13 時 30 分～16 時 30 分、地域で認知症介護をする家族に対する助言等を行いました。
 - ②「認知症カフェくちなし」を月 1 回実施しました。開催方法は感染状況に応じて対面とオンラインで実施しました。9 月～12 月は愛知県モデル事業の一環としてハイブリッド形式で実施しました。
- (12) 施設設備の更新計画を策定し、実施に向けて進めました。今年度は 3 階フロアの床張り替え、給湯装置、1 階空調の更新を検討しました。
- (13) 人材採用、新人育成に取り組みました。新卒就職支援サイトと契約し、インターンシップを実施しました。今年度は新卒を 3 人採用することができました。新人職員の研修プログラムを見直し、育成強化に取り組みました。
- (14) 今年度から法人内の認知症介護大府センター長に、薬剤カンファレンスに参加いただき、認知症の専門的な立場からアドバイスを受け、学びの場としています。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 感染管理委員会

施設の感染対策活動の中核的な役割として感染管理委員会を設置しました。日常的な感染対策から発生時の対応及び施設の感染対策に対する問題点を把握し、改善策を講じるなど施設の感染対策を早期に検討し決定しました。

(2) 感染症対策マニュアルの改訂

感染症を総合的に分析し、ご利用者及びスタッフの感染対策、発生時の対応、連絡体制などを部署毎に策定し、対策全般の対処方針をまとめました。感染症対策マニュアルはホームページに公開し、事態の変化に伴い適宜改訂を行いました。

(3) 感染状況

老人保健施設とグループホームで7月から8月にかけて施設内集団感染が発生したため、愛知県のD-MATチームを要請し訪問指導を受け、それに従った早期対応により、発生から13日間で終息することができました。通所リハビリテーションでは8月と12月に集団感染が発生したため、保健所と相談し、計8日間休業を行いました。

(4) ワクチン接種

行政機関の協力により7月に4回目、12月に5回目のワクチン接種を施設内で実施しました。

(5) 検査

昨年度から継続して愛知県による無料のPCRスクリーニング検査を毎月2回実施しました。1月からは愛知県による無料の抗原検査も実施しております。今後も積極的に受検をしていきます。

(6) 面会

感染状況に応じて対面面会とオンライン面会を併用して実施しました。対面面会は10月末～11月末、2月末～現在まで感染対策を講じながら実施しました。感染対策上、対面面会は1人、オンライン面会は2人までと人数を制限した上で実施しました。

(7) 保健所及び県の派遣応援チームとの連携構築

保健所と定期的に連絡調整と近隣の感染状況の把握及び感染対策に対する助言を受けながら、早期の感染対策を講じることで予防に努めました。

(8) 近隣施設、医療機関との情報共有

近隣施設と常に情報交換を行い感染予防、発生時の対応などを共有しました。多様な課題と一緒に取り組めるように、近隣施設間のネットワークを構築し、検討を行ってきました。また情報を早期にスタッフ間で共有し、早期の感染対策に努めました。

(9) スタッフ間の連絡体制構築

中部電力が運営している「ビジエネ連絡網」を活用し、迅速にスタッフ連絡を実施し

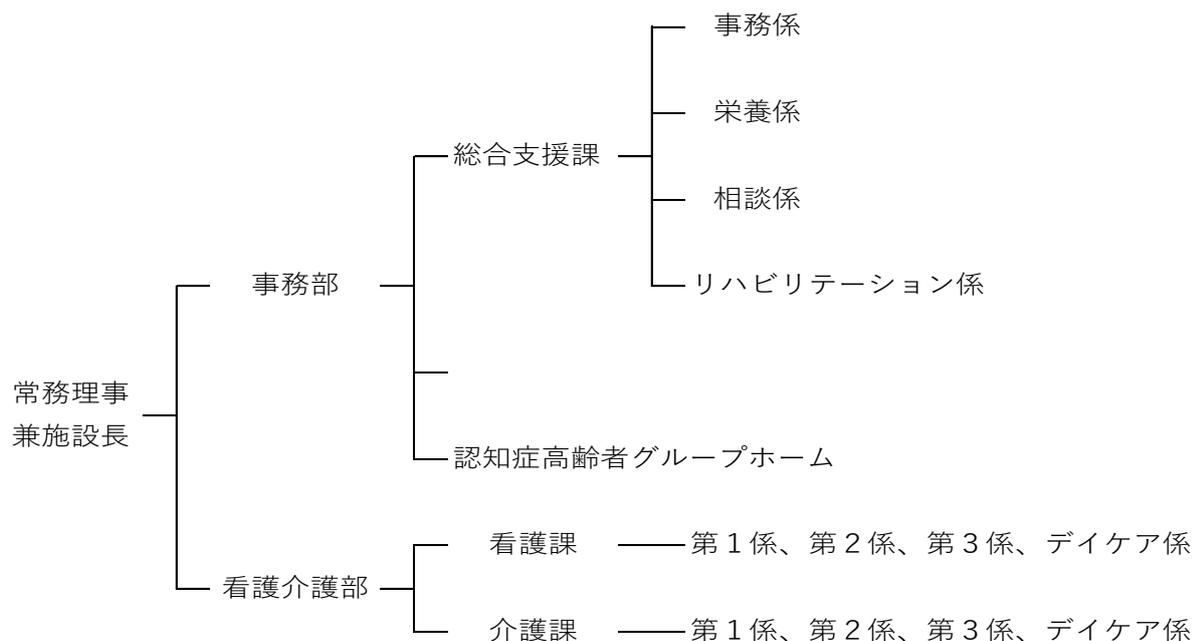
ました。早期の情報共有、感染対策に努めることができました。

(10) 感染症対策物品の整備、備蓄

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援金として、感染症対策に対する物品整備のための補助金が交付されました。手袋、マスク、ガウン、消毒液の基本的な感染対策物品を長期的に備蓄しました。

3. 組織（介護老人保健施設及び併設施設）

令和5年3月31日現在



4. 職員実数

令和5年3月31日現在

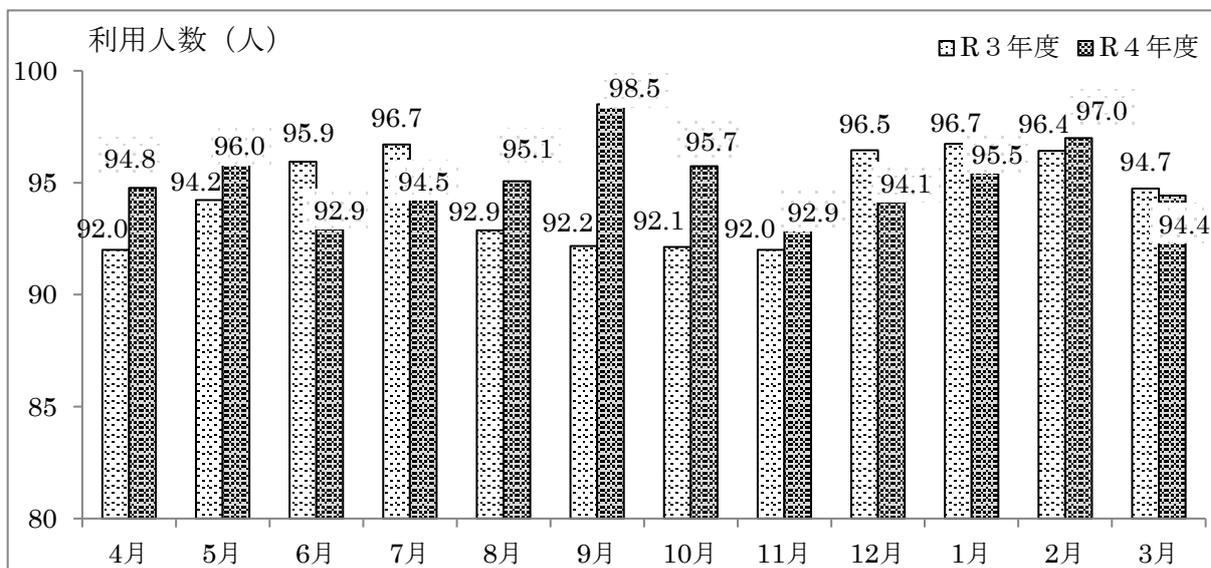
	介護老人保健施設 (通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーションを含む)		認知症高齢者 グループホーム	
	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準
施設長（管理者）	1	1	1	1
薬剤師	0.35	0.33		
看護職員	14.63	11	0.8	3
介護職員	47.90	27	4.6	
支援相談員	3.50	1		
作業・理学療法士	10.03	3		
介護支援専門員	1.00	1	0.1	実数
管理栄養士	2.20	1		
事務職員	1.40	実数		
施設管理員	0.45	実数		
計	81.33	45.33	6.5	4

5. 介護老人保健施設ルミナス大府

(1) 各サービス利用状況

①長期入所 利用状況

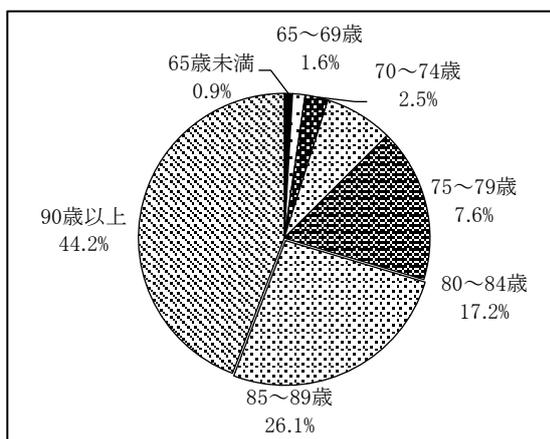
ア. 月別利用者数 年間平均 95.13 人/月 (3年度 94.37 人/月)



年間平均利用者数は95.13人/月でした。昨年度と比較して0.76人/月上昇しました。6月、11月は入院者と特養・有料老人ホームへの入所が重なった影響で92人台と落ち込みましたが、8月～10月、1月～2月は95～98人以上で推移しました。9月には満床の日が5日間続きました。平均利用日数は550.6日(令和5年3月31日)でした。

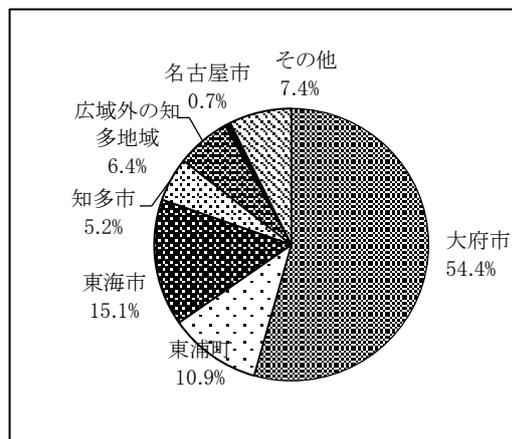
イ. 年齢別利用割合

平均86.5歳 (3年度85歳)



全体の分布は3年度と比較して、高齢化が進んでおり、平均年齢は1.5歳上昇しています。90歳以上の割合は6.9%増加しています。

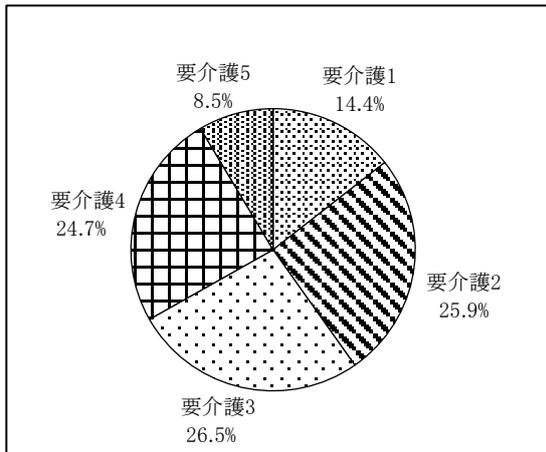
ウ. 住所地別利用割合



大府市からの入所者が半数以上を占めています。次に東海市15.1%、東浦町10.9%と続いています。全体の分布は3年度と比較して変化は見られませんでした。

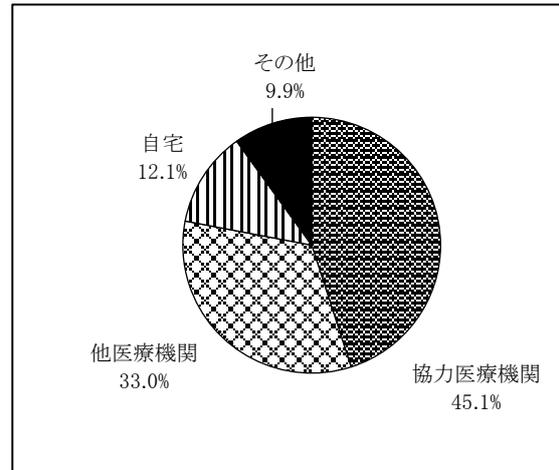
エ. 介護度別利用割合

平均介護度 2.9(3年度 2.9)



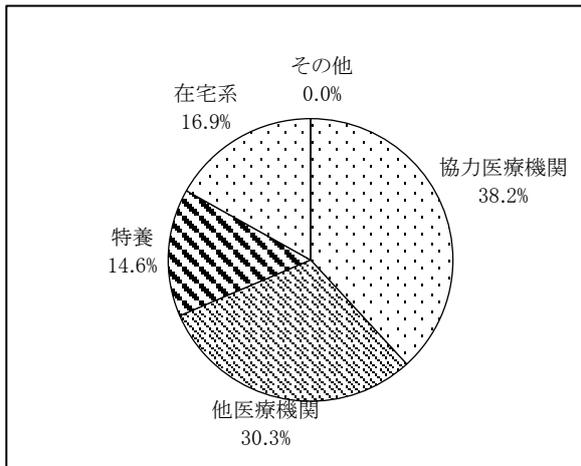
平均介護度は2.9でした。3年度と比較して変化は見られませんでした。要介護4以上の方が約3割を占めています。

オ. 入所経路別利用割合



医療機関からの入所が約8割弱を占めています。

カ. 退所経路別利用割合

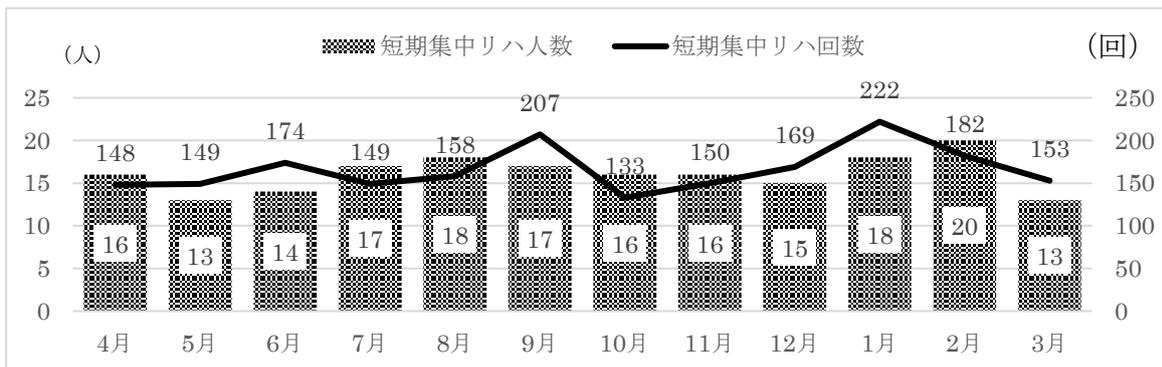


医療機関への退所が最も多く約6割以上を占めています。特別養護老人ホーム14.6%、有料老人ホームを含めた在宅系への退所は16.9%になっています。

キ. 長期入所 短期集中リハビリテーション加算

延べ実施人数と実施回数 193人、1994回 (3年度 149人、1454回)

月平均人数 16.1人 (3年度 12.4人) 月平均回数 193回 (3年度 128回)

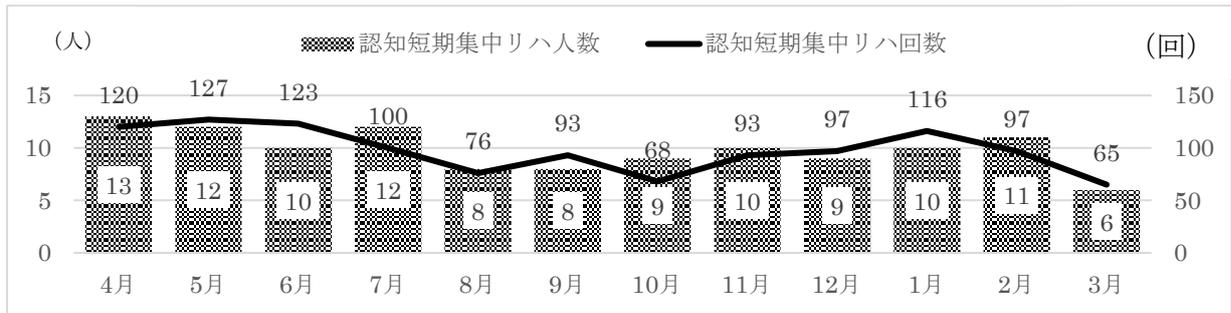


短期集中リハビリテーション加算の実施数は、月平均 16.1 人、月平均回数 193 回でした。在宅復帰の可能性の有無に関わらず、対象期間で体調に問題のない入所者すべてに実施しました。また、在宅復帰の可能性のある方には週 4-5 回を実施しました。3 年度に比べ大幅に増加しました。

ク. 長期入所 認知症短期集中リハビリテーション加算

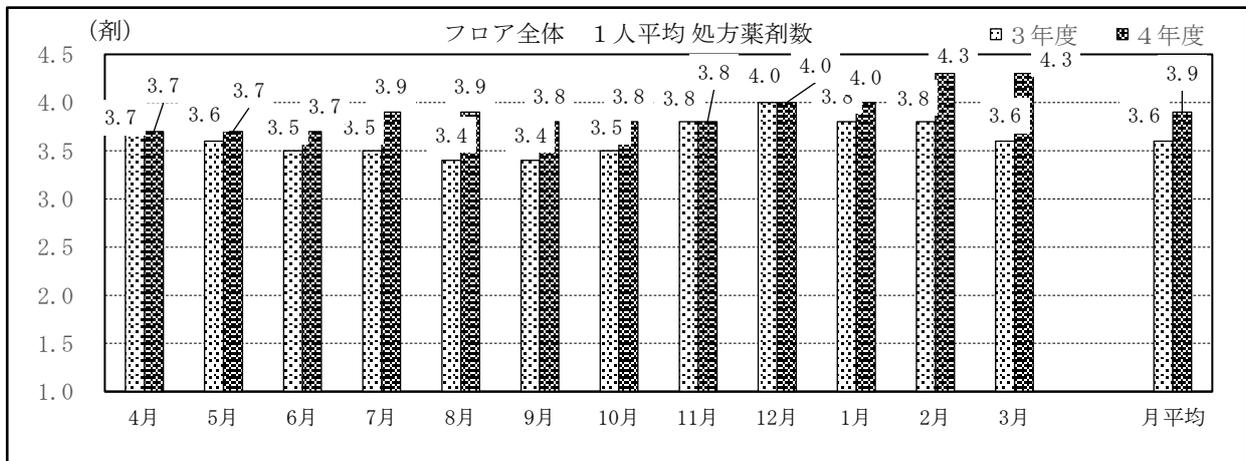
延べ実施人数と実施回数 118 人、1175 回 (3 年度 90 人、872 回)

月平均人数 9.8 人 (3 年度 7.5 人) 月平均回数 97.9 回 (3 年度 72.7 回)



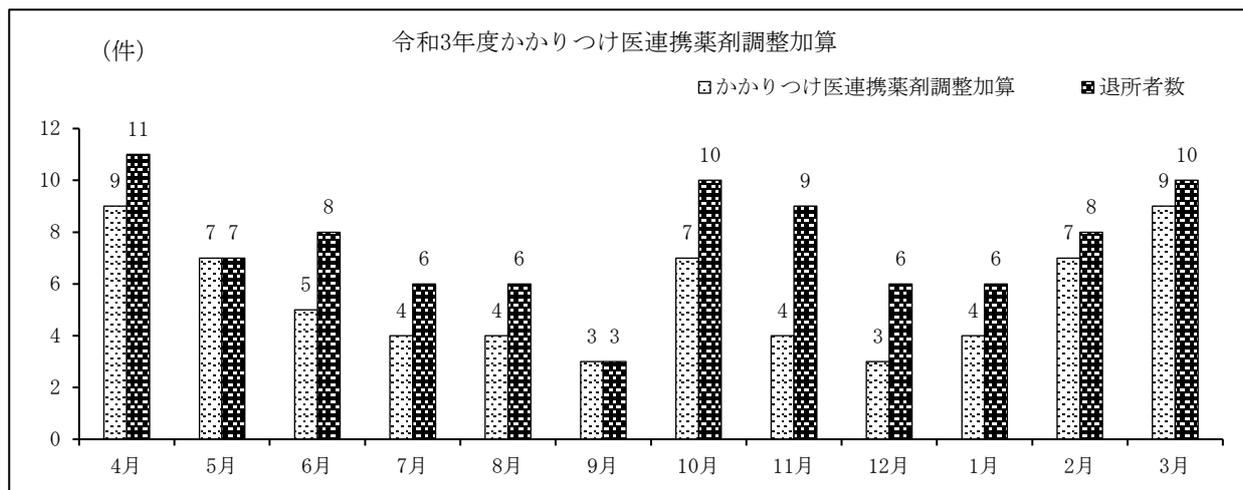
認知症短期集中リハビリテーション加算の実施数は、月平均 9.8 人、月平均回数 97.9 回でした。2 階の専従スタッフが常勤になったこともあり、3 年度に比べて大幅に増加しました。

ケ. 薬剤調整



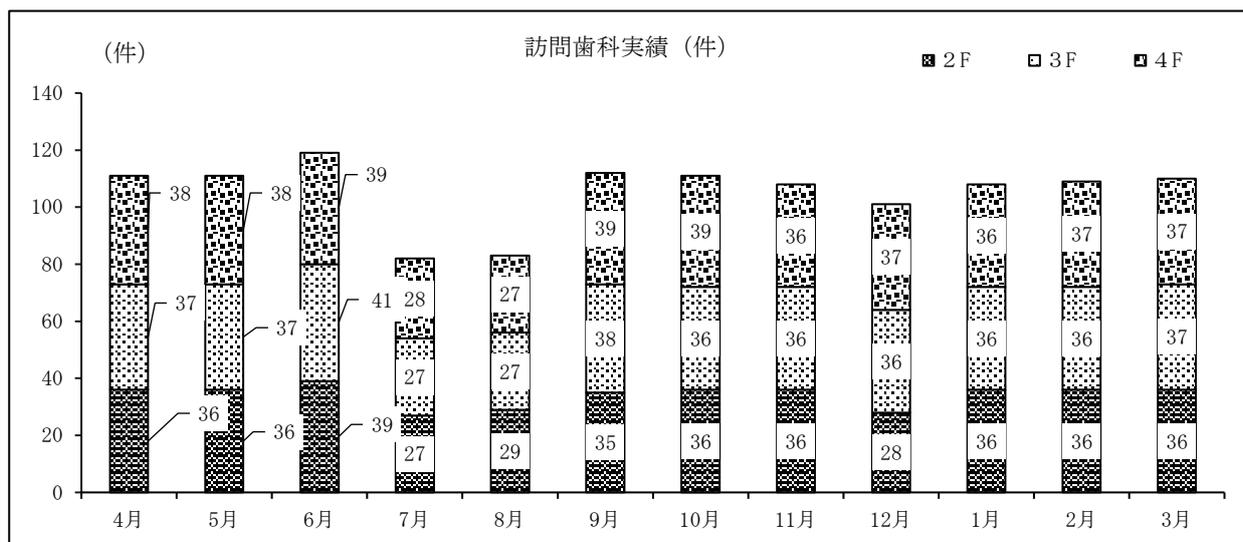
3 年度の 1 人あたりの平均処方薬剤数は 3.6 剤でしたが、今年度は平均 3.9 剤でした。薬剤師と連携してポリファーマシーに取り組んでいます。3 年度の月平均処方回数は 93.8 回でしたが、今年度は 69.9 回でした。技術料を削減することができました。

コ. かかりつけ医連携薬剤調整加算 (I～III)



かかりつけ医連携薬剤調整加算は、退所時に1回算定するものであり、退所者数90件のうち66件算定しています。算定できなかったケースに検査入院や数日の短期入院、数日以内の入所期間があげられます。

サ. 訪問歯科実績



大府市内の「つばめ訪問歯科」による往診が週3回行われています。嚥下機能評価は週1回のペースで実施されています。食事形態と食事摂取の見直し、口腔ケア、嚥下訓練等について指導を受け、肺炎防止に向けて取り組んでいます。

②短期入所 利用状況

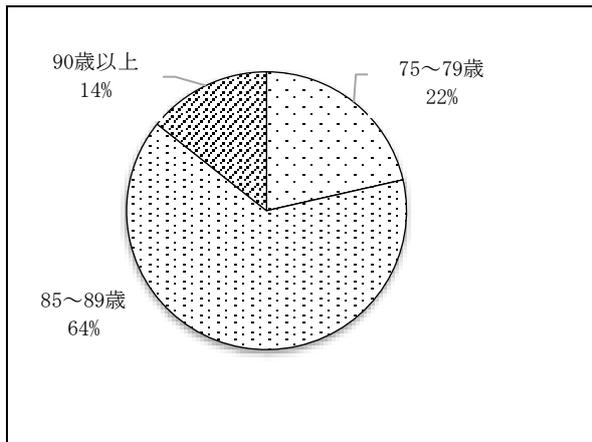
ア. 利用実人数4人・延利用日数14日

(3年度: 利用実人数11人・延べ利用日数42日)

令和3年5月からショートステイは空床利用としました。4人の方が合計14日間ご利用されました。内訳は介護者の入院等緊急の要請で自宅から2人、地域包括ケア病棟より2人でした。

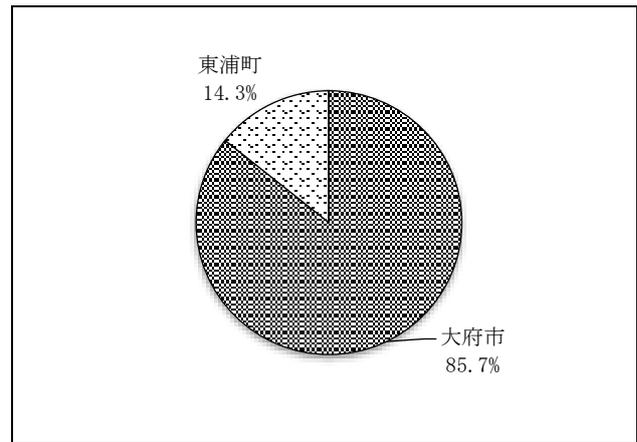
イ. 年齢別利用割合

平均 85.6 歳 (3 年度 85.3 歳)



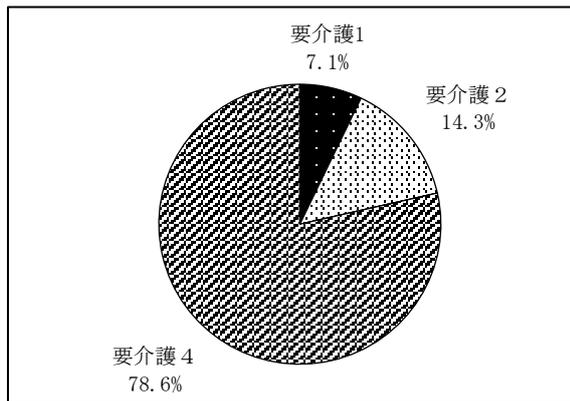
平均年齢は昨年度と比較してほぼ変化は見られませんでした。

ウ. 住所地別利用割合



大府市在住の方が約 8 割以上を占めています。

エ. 介護度別利用割合 平均 3.5 (3 年度 3.0)



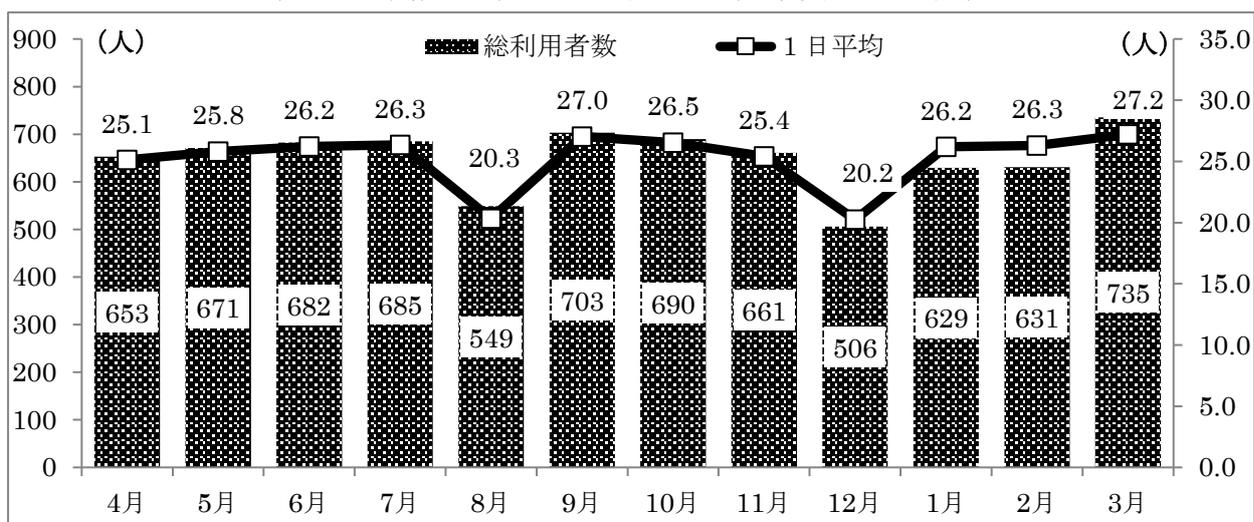
平均介護度 3.5 でした。昨年度と比較して 0.5 重度化しています。

オ. 短期入所 個別リハビリテーション加算 実施人数と実施回数

今年度の短期入所の個別リハビリは 3 月に 1 人のみで、年間実施 5 回でした。

③通所リハビリテーション 利用状況

ア. 一日コース（6～7時間） 平均 25.2 人/日（3年度：25.7 人）

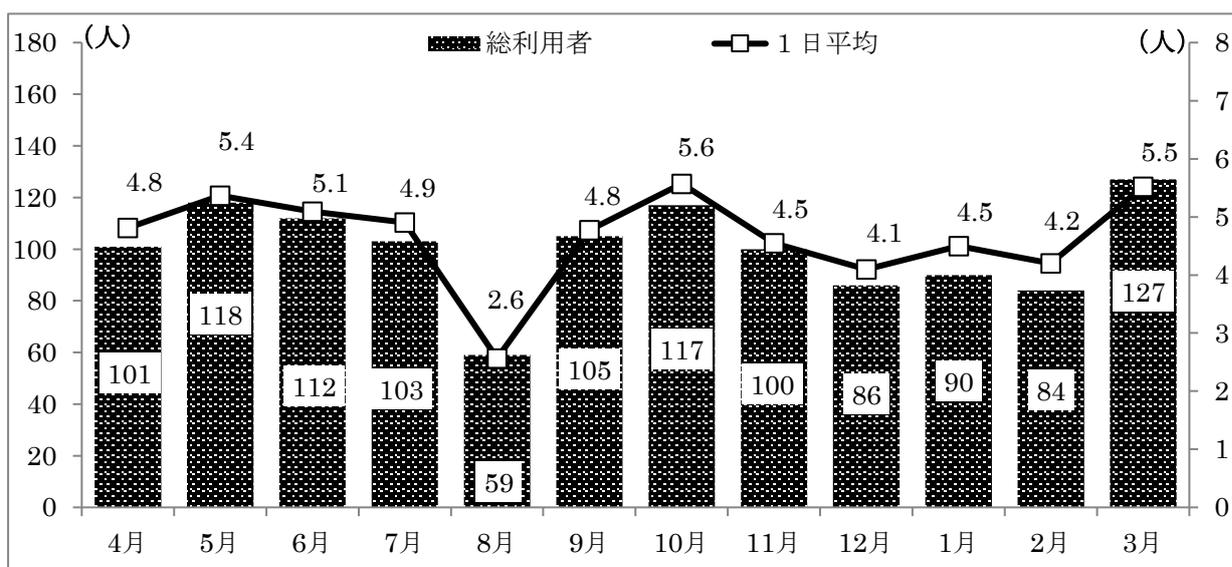


今年度はコロナ感染拡大で通所リハビリテーションでも多大な被害を受け、陽性者が、ご利用者9人・スタッフ7人となりました。また、同居のご家族が陽性者となり濃厚接触というケースも多く見られました。そのため感染者・濃厚接触者だけでなく、感染を恐れて計221人が欠席されました。

さらに、感染拡大により8月に4日間の営業中止、12月はクラスターにより保健所からの指示で4日間営業停止となり、計245人が欠席されました。感染症の影響による欠席者は合計466人（前年度より+220人）でした。

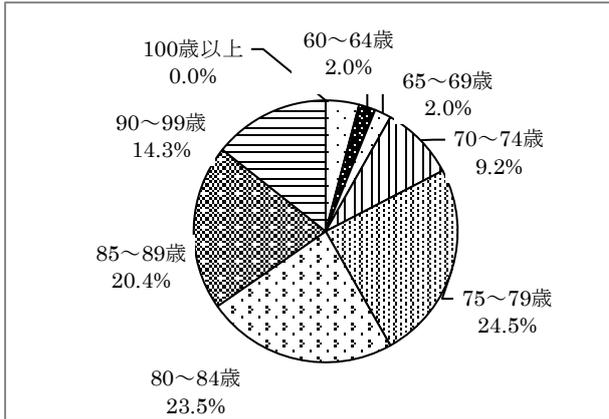
出来る限りの感染対策を実施しましたが、環境的に食事の際は、ご利用者同士の濃厚接触は避けられませんでした。しかし、スタッフ間の濃厚接触は無く、被害は最小限に抑えられました。

イ. 短時間コース（1～2時間、2～3時間） 平均 4.7 人/日（3年度：5.1 人）



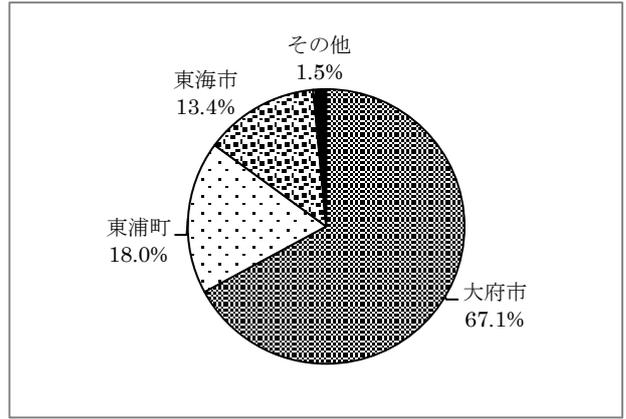
短時間コースは9時30分～11時、11時～13時10分、14時～16時10分の3コースで営業しています。新型コロナウイルス感染症の影響で8月、12月に計7日間の臨時休業をしました。感染症の影響で合計61人が欠席しました。

ウ. 年齢別利用割合 (3年度 80.92歳)



ご利用者の年齢層に昨年との大きな違いは見られません。

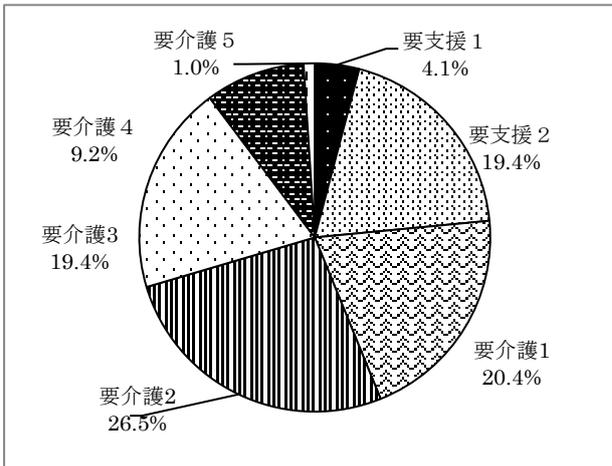
エ. 住所地別利用割合



全体の約9割が大府市と東浦町のご利用になっています。

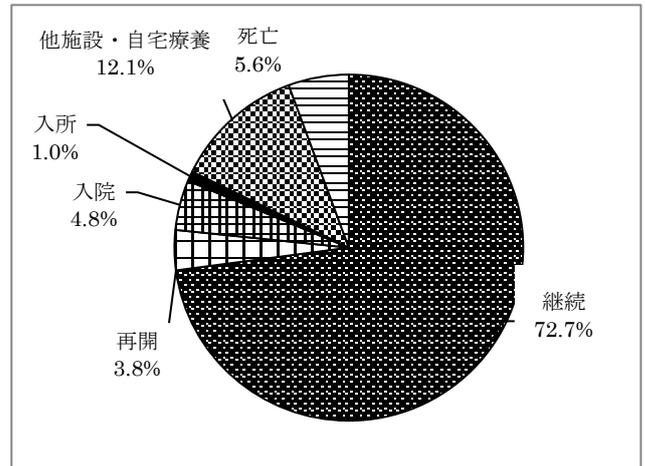
オ. 介護度別利用割合

平均介護度 1.86 (3年度 1.79)



平均介護度は1.86でした。

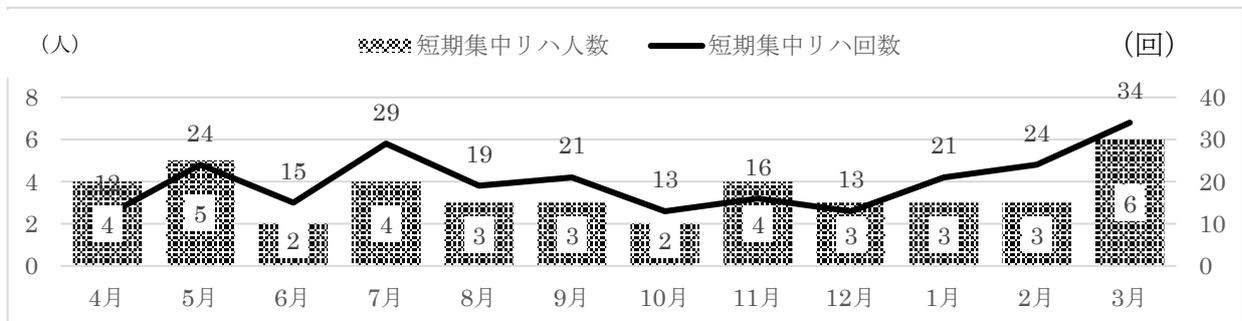
カ. 利用継続率と利用中止理由



72.7%の方が利用を継続されています。

キ. 通所 短期集中リハビリテーション加算・実施人数と回数 (実施率100%)

対象者：平均 20.1回/月 (3年度 平均 30.7回/月)



短期集中リハビリテーションは、ご利用者・ご家族の意向とケアマネジャーの支援計画に沿って実施しました。

(2) 部門別報告

①相談部門

ア. 入所率 95%以上の確保

今年度の入所率は 95.16%でした。3 年度は 94.48%で 0.68%増加しました。3 年度の新規入所者 69 人に対して今年度は 22 人増加し、91 人でした。医療機関から 71 人入所しており、そのうち、協力医療機関から 41 人、その他の医療機関から 30 人の入所でした。協力医療機関のうち、国立長寿医療研究センターからの入所が約 8 割を占めています。退所は 90 人で、そのうち、8 人の方が在宅復帰することができました。法人内の通所リハビリ・グループホームと月 1 回情報共有の会議を実施し、左記の事業所から紹介で入所につながったケースが 3 件あり今後も継続して取り組む予定です。

イ. 在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得継続に向けた取り組み

3 年度と同様にベッド回転率・入所前後訪問指導割合・退所前後訪問指導割合の取得は継続できました。40 点の指標を確実にするために、「喀痰吸引の実施割合」5%の取得を目標に嚥下状態に不安のある方を対象に訪問歯科医師による嚥下評価を実施、吸引の必要性を確認した上で適宜吸引を実施し、今年度は平均 10.4%でした。今後も安定的な加算取得の継続を維持します。

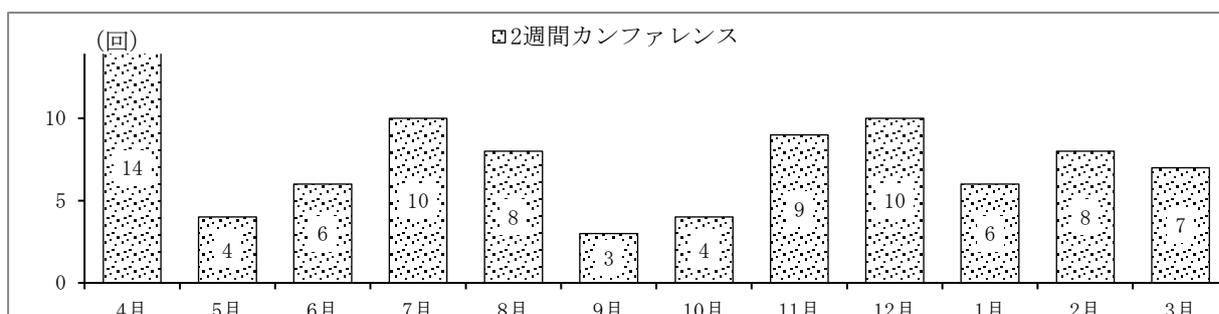
ウ. 入所前後訪問指導・退所前後訪問指導

今年度もコロナ感染状況は厳しいものであり、感染対策上対面で行う代わりに書面や電話など代替の方法によって施設内外のサービス事業所と情報共有を図り、自宅とその他施設を合わせて 15 件スムーズな自宅・施設退所につなげました。

エ. ホームページ活用による新規利用者の獲得、地域家族間のネットワーク構築

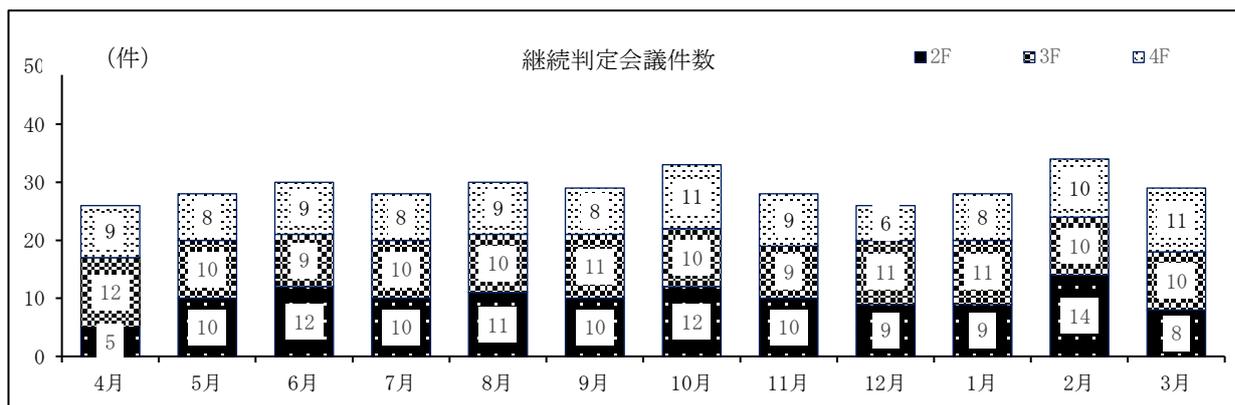
新規入所相談において「ホームページを見て電話しました」「病院から施設を紹介されてホームページを見ました」というお声が増えています。閲覧件数は増加しており、広報委員会による週 1 回の新着情報のアップやコロナマニュアルの掲載等ホームページの活用が地域やご家族とのつながりに寄与していると思われま

オ. カンファレンスの充実について



新規入所者に対し各フロアで 2 週間カンファレンスを確実に実施し、適宜ケアプランの修正や追加を行うことができました。

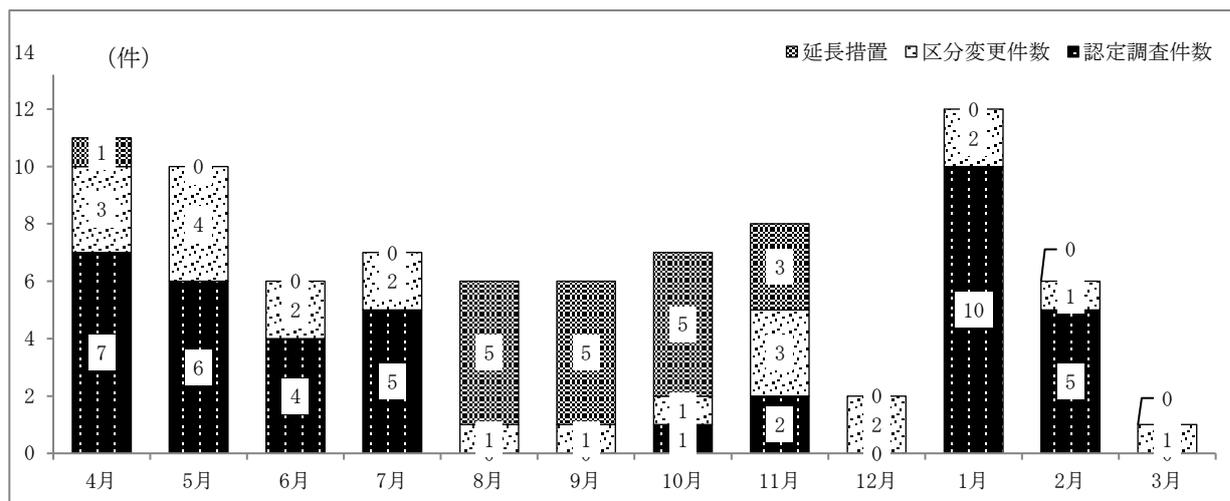
カ. 継続判定会議の開催



在宅復帰促進、状態悪化や長期入所者に対する適切な退所支援を行うため、継続判定会議を実施し、各フロア月平均9.69件でした。

在宅等復帰は自宅退所8件、介護付き有料老人ホーム1件、住宅型有料老人ホーム4件、グループホーム2件、介護保険施設（特別養護老人ホーム）へは13件でした。

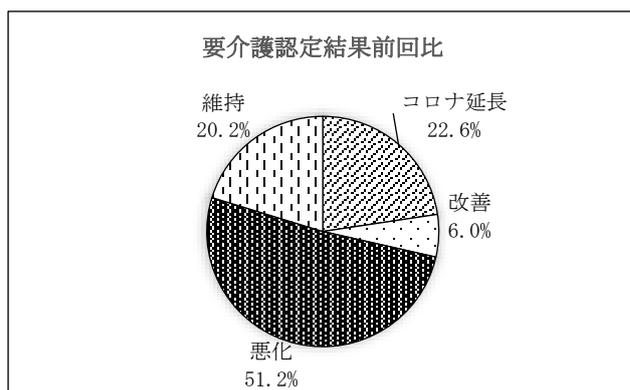
キ. 適切な区分変更の実施



令和3年4月から認定の有効期間が最長4年間になりましたが、今年の認定調査件数は40件と昨年の59件を下回る結果となっています。要因としては8月～10月にかけてコロナ感染対策としての認定調査の延長措置がとられたため（この期間の延長措置者15人）と考えられます。

区分変更は23件で昨年の6件を上回る結果となりました。市中のコロナ感染の落ち着きに伴い、対面式での認定調査を積極的に受け入れることとしたためです。

ク. 要介護度の変化



感染対策としての認定調査の延長措置をした割合は22.6%でした。悪化が半数以上を占めている要因としてはコロナ延長措置を2年以上経た結果、2年以上前の認定結果との比較となったためと想定されます。

ケ. その他

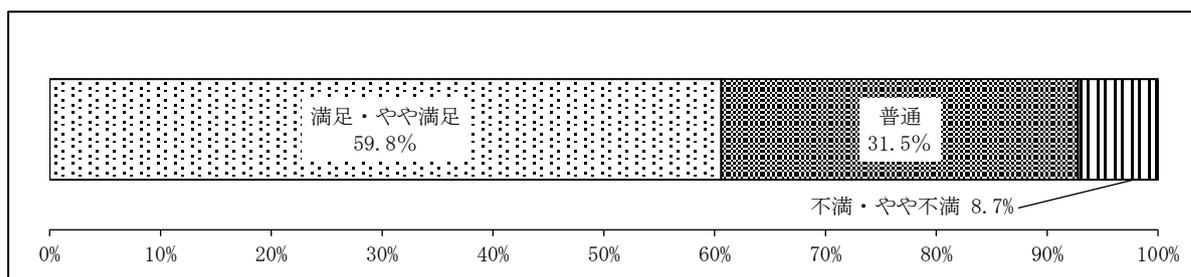
3年度の大規模な介護報酬改定により、新設された加算（科学的介護推進体制加算Ⅰ・自立支援促進加算・リハビリテーションマネジメント計画書情報加算・栄養マネジメント強化加算・かかりつけ医連携薬剤調整加算・口腔衛生管理加算Ⅱ）取得の継続を実施しました。それぞれの加算について各職種と協働して取り組みを実施し、安定した収入源となっています。また上記の加算はLIFE（科学的介護情報システム）への情報提供が必須で他職種と協働して取り組みました。

②栄養部門

ア. 嗜好調査を5年2月に行いました。

対象者149人、回答率96.1%（本人回答62.7%、聞き取り37.3%）

満足度は（満足・やや満足）59.8%と目標の75%以上は未達成でしたが、全体的に3年度と比較し満足度に大きな変化はありませんでした。入所者の満足度は前年と変わらず、通所者の満足度が減少した分、不満やや不満の回答が増加しました。調理担当者の欠員による応援体制が続き、味付けや仕上がりの不安定さ、メニューのマンネリ化、新型コロナウイルスによる調理レクの減少が満足度低下の原因となりました。



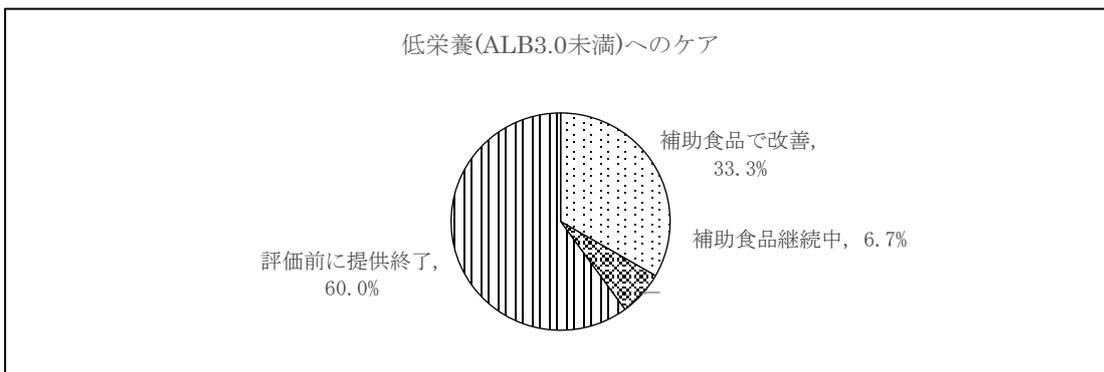
前年との比較

%	満足 やや満足	普通	不満 やや不満
4年度	59.8	31.5	8.7
前年比	-0.8	-0.7	+1.5

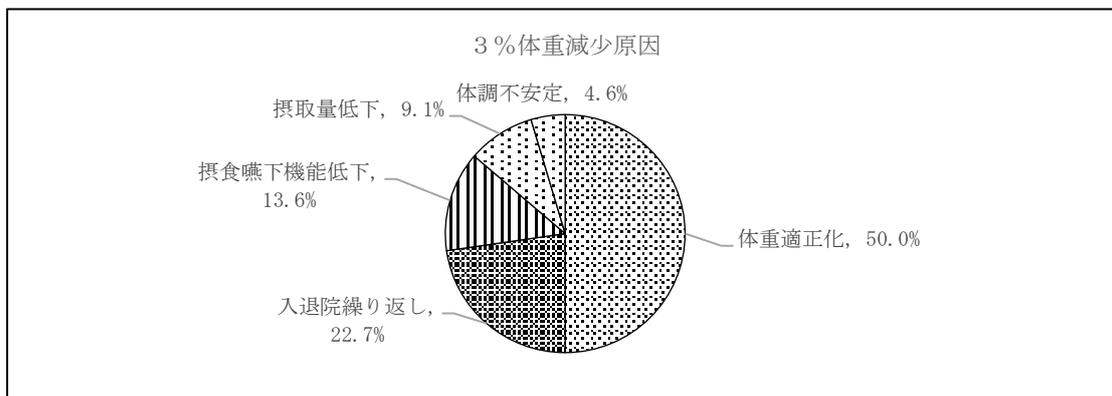
- ・食事委員会は職員及び給食委託業者で組織し、食事サービス向上に向け、月1回開催しました。月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。
- ・衛生管理に努めました。
個人衛生管理、施設設備管理、原材料の取扱管理、器具類管理、食品取扱管理、廃棄物管理等については、点検表を設け管理を行いました。主なものとして、使用水の残留塩素濃度（毎日、始業時・終業時）の測定、毎食の加熱食品の中心温度の測定等39項目について行いました。
- ・食中毒予防として、検収場での品質・鮮度・品温・異物混入等の点検、調理器具の洗浄・消毒・乾燥等、厨房スタッフへの教育を徹底しました。（5、12月実施）

イ. 適切な栄養ケアマネジメントを実施しました。

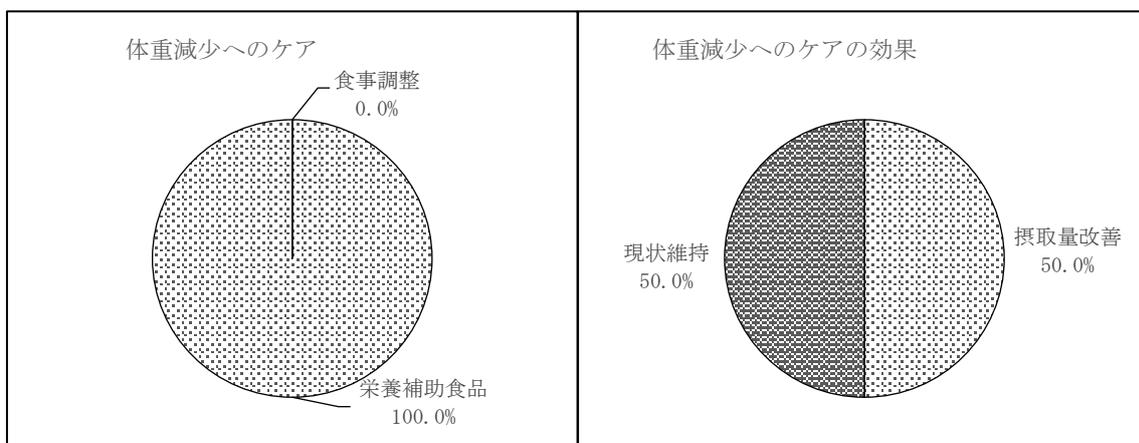
- ・入所者に対して栄養スクリーニングを実施し、3ヶ月毎のアセスメントを実施する事により、低栄養状態（ALB3.0未満）のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました。（新規入所者：91人を含む延べ336人）
- ・低栄養リスクの高い入所者に対して、低栄養状態を改善する為の計画を作成し、栄養ケアを行いました。（合計15人、病院や施設からの入所者14人）その結果、栄養補助食品にて改善は5人（33.3%）、栄養補助食品継続中は1人（6.7%）、評価前に入院し提供終了は9人（60.0%）でした。



- ・入所者の内、直近6か月で3%以上の体重減少があった方は22人でした。（適正体重化：11人（50%）、入退院繰り返し：5人（22.7%）、摂食嚥下機能低下：3人（13.6%）摂取量の低下：2人（9.1%）、体調不安定：1人（4.6%））



- ・体重減少がみられた入所者 22 人の内、摂食嚥下機能低下が原因の 3 人はミールラウンド対象とし、随時、食形態やとろみの濃度等を歯科医師の助言により変更しています。摂取量の低下があった方で栄養補助食品を使用した方は 2 人で、そのうち、摂取量改善は 1 人、現状維持は 1 人でした。



- ・栄養充足率（摂取量/必要量）はエネルギー107.6%、蛋白質 96.7%でした。

ウ. 摂食、嚥下困難な入所者への栄養ケアを実施しました。

- ・訪問歯科と連携し、適宜嚥下評価を実施し、誤嚥性肺炎や低栄養や褥瘡の予防に努めました。
- ・医師の指示に基づき、経口により食事を摂取している方で、著しい摂食障害があり誤嚥が認められる入所者に対して、経口維持計画書（摂食・嚥下機能に配慮した計画、他職種による評価、記録）を作成しました。

（経口維持加算（Ⅰ・Ⅱ）17人）

訪問歯科による嚥下評価は 17 件、その内 13 件が経口維持加算算定者となりました。

（残り 4 件は経口維持算定基準には満たないとの評価）

エ. 提供食数

食種ごとの食数表（令和 5 年 3 月・昼食の平均）

主 食						
米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	粥ソフト	パン	合計
55	27	30	6	1	3	122

副 食					
常食	一口大	刻み	ミキサー	ソフト	合計
50	26	34	10	2	122

- ・実習生の受け入れはありません。

③看護・介護部門

ア. 入所者・ご家族の満足度の向上

- ・ご家族への「満足度アンケート」の結果、「普通以上」の評価 90%以上は、今年度も到達しました。アンケートの結果に対するフィードバックの掲示も行いました。対面面会の要望が強かったことから、県内のコロナ新規発生者数 1000 人以下が

3日続いたタイミングで、2月27日(月)より再開としました。

・昨年同様、職員の自己点検シートを基に個人アクションプランの振り返りを実施、サービス向上に取り組みました。

イ. 事故・感染に対するリスクマネジメント

- ・行動制限や転倒防止物品の使用状況を毎月報告し、情報共有に務めました。転倒防止物品は、委員会が定数管理を行うこととなりました。
- ・転倒事故の発生数は、3年度97件のところ、44件と減りました。分析の結果、1フロアで4人の方が、3~4回ずつ転倒を繰り返すといったフロアの特徴が大きく関与しており、フロア毎の対応策の検討が必要であることが分かりました。
- ・一方で、誤薬のヒヤリハットが6件発生したため、合同カンファレンスを開催しました。転倒と同様、1人のスタッフから複数回発生していることから、周囲のスタッフの協力を得ることで対応することとしました。
- ・12月の実地指導を機に、身体拘束マニュアル・高齢者虐待防止マニュアル及び事故防止マニュアルを一体化し改訂、安全推進マニュアル2022としました。
- ・7月のクラスター発生後、食堂のスクール形式、換気、食事時のフェイスシールド、消毒液ポーチの配布等を行いました。職員も食事は一人で行うこと、ステーション内の清掃・消毒に努めました。その後、施設内で利用者の発生はありませんでした。
- ・感染委員会も毎月委員会を開催。
- ・感染防止マニュアルを改訂、総論・各論・コロナウイルス感染症・事業継続計画を含んだ内容としました。

ウ. ケアの質の担保

- ・感染小委員会主催学習会2回、You-Tube(92人)と感染症発生時のシミュレーション訓練には68人の参加がありました。
- ・事故防止研修会は11月に誤薬について、3月にヒヤリハットの重要性について、薬剤師の連携のもと、オンラインの抄読会スタイルで行いました。
 - ・権利擁護研修および認知症研修では、部署内で資料配布と少人数での話し合いを行いました。
- ・昨年同様、部署ごとに取り組んだ研究・業務改善の成果をポスターで発表することができました。
- ・歯科医師・衛生士による往診・ケアを週3回実施しました。肺炎で入院したご利用者は令和2年11件、3年11件、4年10件でした。
- ・法人内の認知症介護大府センター長と定期的に薬剤カンファレンスの場を設け、認知症の専門的な立場からのアドバイスをいただきました。

エ. 入所者の安心と働きやすい職場づくりのための業務改善

- ・計画的な採用活動：一年を通して積極的に活動を行いました。新規採用者の教育に活用するための業務手順の見直しを行いました。
- ・入浴介助及び清掃の委託業務を廃止、自施設職員で実施できるようにしました。
- ・対人援助が少ない業務を切り分けて、無資格者にも門戸を広げ、専門職が対人援助に専念できるよう業務改善しました。
- ・1年程度の病気休職者1名が復職し、業務軽減を図りながら、ルーチン業務を中心に調整することで、継続することができています。
- ・夜勤回数が多かったフロアの夜勤可能人数を増やし不均衡を緩和しました。

- ・代休の取得率は100%であり、有給取得日数の平均は10.6日と、昨年より伸びました。

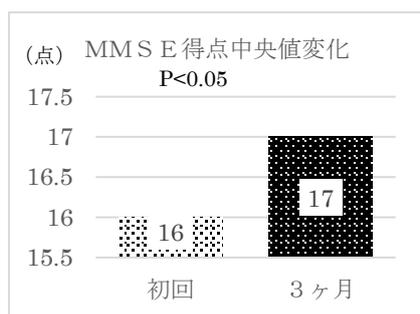
④入所リハビリ部門

ア. リハビリの実施

- ・コロナ禍に対する感染拡大予防のため、職員体制を3年度と同様にリハビリ職員の兼務を中止し、フロア間の移動も最小限とする職員配置（各フロア担当制）でのリハビリを継続しました。また、通所者との接触を避けるために、機能訓練室での個別リハビリを中止し、フロアでのリハビリも継続しました。
- ・在宅復帰の可能性の有無に関わらず、対象期間で体調に問題のない入所者すべてに、短期集中リハビリを提供し対象人数が低下しないよう努めました。
- ・認知症の短期集中リハビリの実施は、実施条件を満たす入所者には在宅復帰の可能性の有無に関わらず実施しました。
- ・4階フロアでコロナ感染症が発生した隔離期間は、保健所の指示もあり、個別リハビリおよび集団リハビリは中止しました。

イ. 心身機能の維持向上

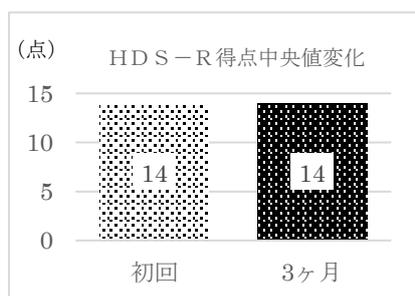
- ・認知症短期集中リハビリ実施者の評価結果



今年度に認知症短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は26人でした。

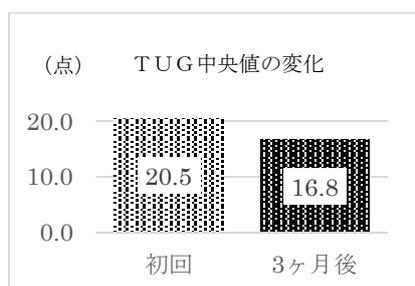
認知機能評価（MMSE）は、実施前と終了後の中央値の変化を比較し、初回は16点、3ヶ月後（終了時）は17点で統計学的有意差もあり向上が図れました。

- ・短期集中リハビリ実施者の評価結果



今年度に短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は43人でした。

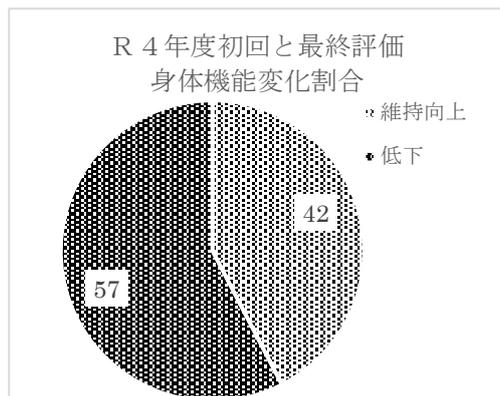
認知機能評価（HDS-R）は、実施前と終了後の中央値の変化を比較し、初回は14点、3ヶ月後（終了時）は14点で有意差はなく維持することが出来ました。



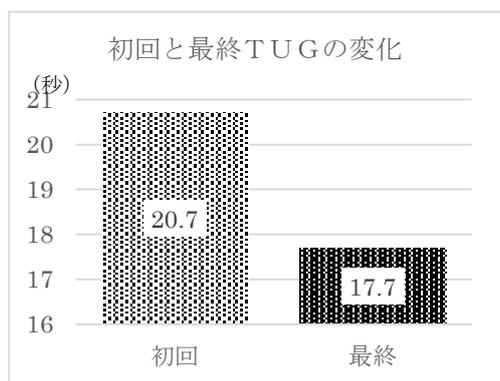
43人の初回の評価と終了時の身体評価の維持向上群の割合は40.9%で、今年度の新規入所者は短期間で身体機能が低下する割合が高かったです。

しかし移動・バランス評価（TUG）が実施出来た18人については中央値の変化は初回20.5秒、3ヶ月後（終了時）16.8秒で有意差はなく維持することが出来ました。

・入所者全体におけるリハビリ評価結果



今年度に入所期間3ヶ月以上の入所者を対象に、初回と最終評価を実施出来た方99人の身体機能の変化を比較しました（評価項目：TUG・5m歩行・30秒間立ち上がり・立位保持時間・5m車椅子自操時間で、各入所者のレベルによって選定）。初回に比べ運動機能が維持向上出来た入所者の割合は42.4%で、入所期間の長さに関わらず低下している入所者が多く見られました。その中で、初回と最終でTUGの評価が行えた方は44人で、中央値の変化は初回20.7秒、最終17.7秒で有意差はなく維持出来ていました。



- ・今年度に短期入所され個別リハビリを希望される方は1人で、居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定されている予定回数を実施しました。

⑤通所リハビリテーション部門

ア. 安定した利用者数の確保

- ・1日コースの目標1日平均27人に対して25.2人でした。短時間コースの目標1日平均5人に対して4.7人でした。あわせて目標1日平均32人に対して29.9人でした。
- ・利用体験は25人でした。その内本利用に繋がった方は20人です。80%が利用に繋がっており満足度は高いと考えます。
- ・近隣の居宅介護支援事業所とは、大府市が主体となり管理しているインターネット上の情報共有サイト「おぶちゃん連絡帳」の活用も徐々に広がり、細かい情報やデータの共有が可能となっています。

イ. 在宅生活が健やかに継続できるよう自立支援の展開

- ・計画書の作成、見直しを適切に行い、目標の把握と対応を続けるよう心掛けました。
- ・連絡帳を基本とし細かく情報共有をご家族と行いました。
新型コロナウイルス流行のため、リハビリスタッフの訪問は極力控えましたが、送迎時のお声かけ等を意識しました。
- ・レクリエーションと季節行事を希望される方が多く、感染対策に留意した季節レクリエーションを毎月開催しました。しかし、全国での新型コロナウイルス感染者数が多

い時は調理レクを控えたため、もっとやって欲しいとの声も聞かれました。

ウ. 安心、安全な送迎サービスの提供

- ・事故の情報をスタッフ間で即時に共有し、危険な場所の把握に努めています。

エ. おもてなしの心でふれあいケアの提供

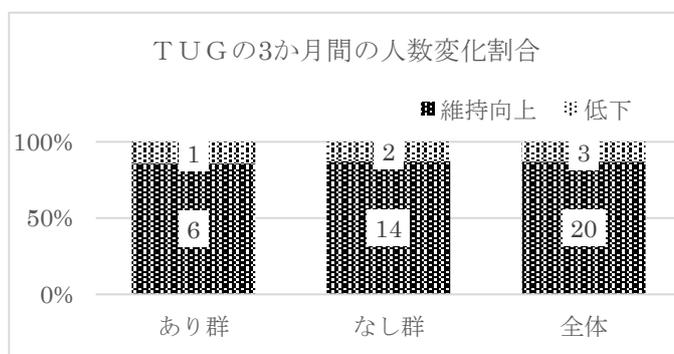
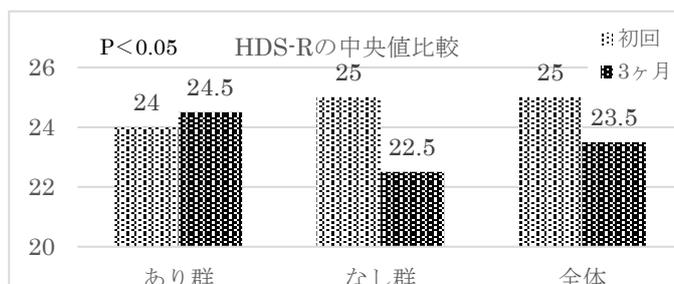
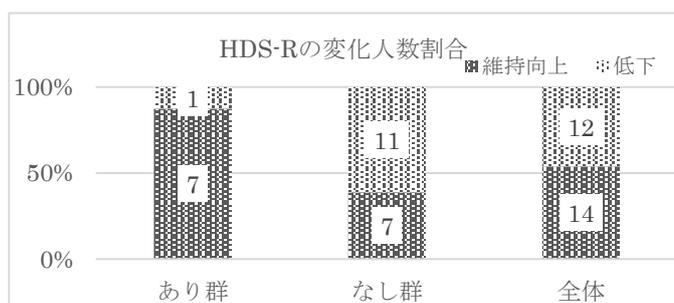
- ・ご利用者の情報を各スタッフが把握し、好む話題やレクリエーションの提供、家族関係や身体の不安への傾聴を心がけています。

オ. リハビリの実施

- ・居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定された短期集中リハビリ加算は100%実施しました。今年度で新規で通所リハビリを利用されたご利用者は34人で、その内、短期集中リハビリを実施した方は10人でした。

カ. 心身機能の維持向上

- ・新規ご利用者のリハビリ評価結果

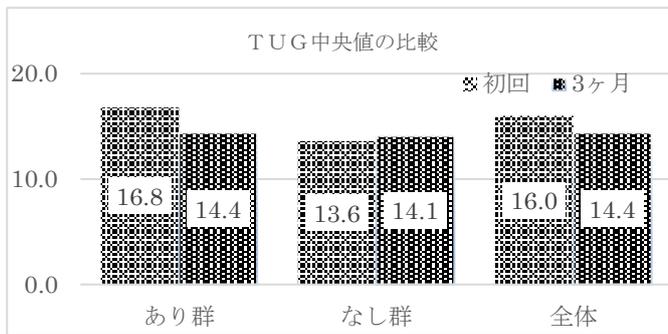


新規ご利用者34人中、3ヶ月以上のご利用があり認知機能評価 (HDS-R) が実施できた方は26人でした。短期集中リハビリあり群は、中央値が24点から24.5点となり、 $P<0.05$ で有意差があり、向上していました。全体の中央値は25点から23.5点でと下がったが有意差はなく維持出来ました。

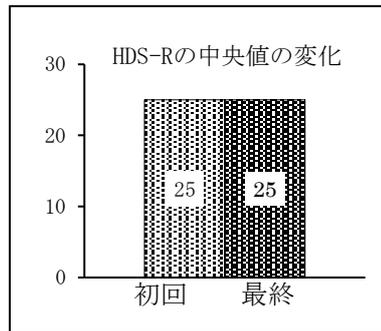
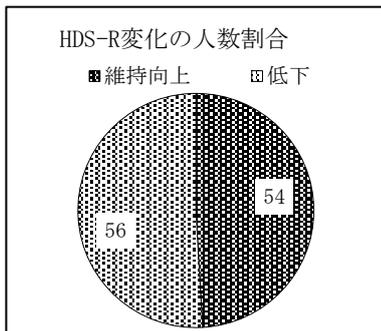
新規ご利用者34人中、移動・バランス評価 (TUG) が実施できたのは23人でした。

短期集中リハビリの有無に関わらずTUG中央値の変化に有意差はなく、85%以上の人数割合で維持向上することが出来ました。

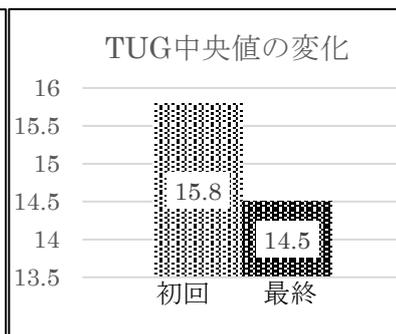
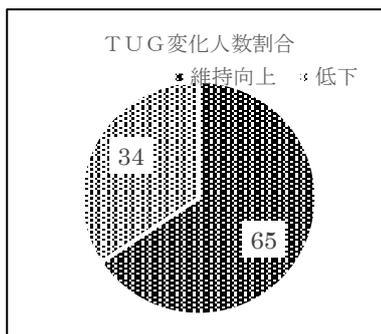
3年度同様に握力の方も有意差はなく維持出来ていました。



・今年度に3か月以上継続利用が出来た全ご利用者118人の評価結果



118人中認知機能の評価（HDS-R）が行えたご利用者110人で、初回と最終の中央値に有意差はなく、維持出来たが、人数割合は昨年度より低下するご利用者が多く見られました。



118人中歩行・バランス機能の評価（TUG）が行えたご利用者は99人で、初回と最終の中央値に有意差はなく、維持出来ました。

キ. 訪問リハビリテーションについてはコロナ禍の影響もあり今年度は実施しませんでした。

ク. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・食事の時間等、対面に座らないよう徹底しています。
- ・利用者へ不織布マスクの装着を繰り返し説明、依頼しています。
- ・常時窓を開けサーキュレーターも設置し空気の循環に努めました。
- ・車内の感染を防ぐため、乗車前に体調を確認しております。また、窓を開け乗車時濃厚接触にならないよう配慮しています。
- ・ご利用者、同居家族に毎日の検温に協力をしていただき、発熱などの兆候を早期に発見できるよう努めています。
- ・ご利用者、ご家族に発熱等異常があった場合は数日間の欠席をお願いしました。
- ・ご利用者間の感染を防ぐため、共有物品を減らし、共有せざるを得ないものは都度消毒を行っています。12月に発生したクラスター後は隣の座席の方と共有して

いたお茶ボトルを撤去しました。

- ・喫茶コーナーはスタッフへの注文方式にし、その都度手指消毒し提供しました。
- ・入所と通所の接触を避けるため、入浴時間を厳密に区別し対応しています。
- ・スタッフ間の感染対策として、食事をとる場所、時間を分けて対応しています。
- ・抗原検査キットをスタッフ全員に渡し、休みの日でも迅速に検査を行える体制を整えました。

(3) 委員会実施状況

委員会名	実施内容	結果
感染	<p>①コロナ感染クラスターの対応</p> <p>②感染対策マニュアルの改訂</p> <p>③学習会の開催</p>	<p>①クラスター発生後の DMAT 指導にて、1 階から 4 階までの食事場所をスクール形式としました。スタッフには消毒液とフェイスシールドを配布し、特に食事場面での感染予防対策を強化しました。また発生時は、各フロア-事務所間の情報交換を Zoom にて密に行いました。</p> <p>②コロナ以外の感染症マニュアルを改訂し、コロナマニュアルを加えて、感染症全般のマニュアルに編集しました。</p> <p>③1 回目 YouTube 視聴 92 人、2 回目感染症発生時のシミュレーション訓練では、68 人の参加者がありました。 *PCR および、抗原検査のスクリーニングの機会が増えることで、早期に対応が可能となりました。</p>
事故防止	<p>①転倒転落ヒヤリハット PC 入力、集計・分析結果の活用</p> <p>②転倒以外の事故(誤薬)の対応</p>	<p>①転倒事故の発生数は、3 年度 97 件のところ、44 件と減りました。分析の結果、1 フロアで 4 人の方が、3~4 回ずつ転倒を繰り返すといったフロアの特徴が大きく関与しており、フロア毎の対応策の検討が必要であることが分かりました。</p> <p>②薬剤師を含めた、合同カンファレンスを開催しました。転倒と同様一人のスタッフから複数回発生</p>

	<p>③安全推進マニュアルの改訂</p> <p>④学習会の開催</p>	<p>していることから、周囲のスタッフの協力を得ることで対応することとしました。</p> <p>③身体拘束マニュアル・高齢者虐待防止マニュアル及び事故防止マニュアルを一体化し改訂、安全推進マニュアル 2022 としました。</p> <p>④誤薬予防の学習会（参加 78 人）、ヒヤット報告の重要性についての学習会（参加 74 人）を開催しました。</p>
研究・教育	<p>① 権利擁護、感染対策、事故防止、権利擁護研修を部署ごとに実施</p> <p>② 施設内研究報告会をポスター掲示式で 3 月に実施</p>	<p>① 部署ごとに少人数での話し合いや、ネット配信等の動画視聴による研修を中心に実施しました。権利擁護研修 75 人、口腔ケアのオンデマンド研修 78 人と、研修に参加出来なかったスタッフにも資料を配布し、全スタッフが研修内容に目を通す事で、知識の共有に努めました。</p> <p>② 研究報告をポスター掲示式で実施する事で、人の密集を避けることもできました。さらに発表を聞くだけよりも、目にする時間があり、何度も見る機会が出来ました。今年度は意見、感想用紙を活用し、興味を持ち発表掲示を見られるように工夫しました。</p>
サービス向上	<p>①家族への「満足度調査」の実施</p> <p>②入浴物品・おむつの発注、管理及び、浴室用転倒予防マットの検討</p> <p>③カルテ整理方法の徹底</p>	<p>①9 から 10 月にかけて満足度調査を実施しました。アンケート結果からご家族の意見をフィードバックしました。直接面会を希望する方も多く、感染状況を見ながら、2 月 27 日(月)より再開いたしました。</p> <p>②浴槽の劣化が激しいことから、滑り止めマットを活用してく方向で検討しました。</p> <p>③監査を機に、カルテの整理方法を</p>

		改訂して明示、きちんと整理する準備が整いました。
行 事	① コロナ禍におけるフロア毎の行事活動	① コロナ禍により、施設全体での行事が実施出来ませんでした。その分フロアごとに行事を行いました。家族との面会の機会が失われたことからくるストレスの軽減に努力し、フロアごとのレクの企画を行いました。
広 報	① 年 4 回の新聞発行 転倒予防、熱中症予防、感染対策、厨房の紹介など ② ホームページの管理。新着情報の週 1 回程度の更新	① 保健センター、公民館に新聞を置かせていただくだけでなく、相談員が外部施設へ出向く際にも新聞を配布して、施設の宣伝材料として利用してもらいました。 ② 閲覧件数が3年度8364件に対して今年度は8559件でした。
食 事	① 厨房職員同伴でのフロア巡回、嗜好調査 ② 月 1 回の行事食、週 1 回の選択食の実施、衛生管理点検	① 食事形態の調理基準の明確化、嗜好調査結果の改善 ② 行事食、選択食の提供、衛生管理点検の実施
防 災	① 防災訓練前に実施（11月・3月）。 コロナの影響を考慮し、通常と違う方法を検討	① 防災訓練を2回(全体訓練11/1、地震想定訓練3/15)実施しました。全体訓練は、1Fを出火場所として訓練を行いました。終了後に給水タンクより水の確保訓練、法人内事業所より発電機を借用し自家発作動訓練を行いました。部分訓練では、2階・3階・4階それぞれで小規模の訓練を実施しました。今年度の訓練はコロナウイルスに対する感染対策として支援グループ、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援は行いませんでした。支援グループ総会についてはコロナウイルスの影響を考慮し、中止としました。

ICT	<p>①WIFI 環境の整備</p> <p>②福祉機器のデモ実施</p> <p>③ウェルネスバレーのアイデアボックス参加</p> <p>④国立長寿医療研究センターからの伴走支援の実施</p>	<p>①各フロアのサービスステーションまで開通しました。今後、フロア全体の開通に向けて調整していきます。</p> <p>②有効な福祉機器を検討しましたが、ネット環境が必須だったため、デモ実施に至りませんでした。今後、Wi-Fi 環境を整え次第、再度デモの実施を検討していきます。</p> <p>③福祉機器等のアイデアは 20 件程集まり、2 件採用され市役所 HP に掲載済みです。</p> <p>④業務効率化の入浴手順書を作成し、活用をしています。今後は他の支援でも手順書を作成していくか検討中です。</p>
BCP	BCP（自然災害）の作成	<p>①基本方針等の作成 大規模な自然災害に備え、業務継続のために平時からの準備体制の整備及び発生した際の利用者と職員の安全確保と、被害を最小限にとどめて事業を継続することを目的とし、BCP を作成しています。</p> <p>②平常時の対応についての検討 平時の準備体制の整備としてライフラインが止まった際の対策を検討中です。</p>

(4) ルミナス大府夏祭り

毎年地域の方々のご協力により開催しているルミナス大府夏祭りは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止としました。

全体行事としては中止をしましたが、各階でフロア毎の行事の充実を図りました。

(5) 地域貢献事業

①認知症伴走型相談事業

令和 5 年 1 月から大府市の委託事業として認知症伴走型相談支援事業を実施しました。法人施設内で相談所を開設し、毎週月、水、金曜日の 13 時 30 分～16 時 30 分、認知症介護の専門的知識、経験をもった職員が相談員として対応しました。

②認知症カフェくちなし

(4年度 参加者 325人 12回開催)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	23	23	22	30	24	37	35	29	29	19	28	26	325

参加者については認知症の当事者及び介護者が延べ110人、一般住民が79人、ボランティア・スタッフ等136人でした。

愛知県からの委託事業「2022年度認知症カフェ活動推進事業(モデル事業)」の実施に伴い、9月～11月はオンライン練習会を同時に開催しました。また、12月は大府市及び大府市内の認知症カフェと協働し、合同認知症カフェに参画しました。

③かがやき塾

令和元年度まで地域支援事業の一環として介護予防教室「かがやき塾」を年5回にわたり吉田公民館で実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れがあるため、中止しております。5年度秋頃の再開に向けて協議中です。

(6) 防災防火対策の取り組み

①防災訓練を2回(全体訓練11/1、部分訓練3/15)実施しました。

全体訓練は、1Fを出火場所として訓練を行いました。終了後に給水タンクより水の確保訓練、センターより発電機を借用し自家発作動訓練を行いました。

部分訓練では、2階・3階・4階それぞれで小規模の訓練を実施しました。

今年度の訓練は新型コロナウイルスに対する感染対策として支援グループ、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援訓練は実施しませんでした。

②支援グループ総会については、新型コロナウイルスの影響を考慮し中止としました。

(7) 地域連携事業

①地域ボランティア

今年度は生け花ボランティア、三味線演奏ボランティアに来ていただき、地域の方々との交流の機会を設けることが出来ました。

②福祉健康フェア

大府市が主催する「大府市福祉・健康フェア」に参加し、パンフレットの掲示・配布等、施設のPR活動を実施しました。

③ウェルネスバレー推進協議会

大府市・東浦町が主催する、ウェルネスバレー運営委員会、ウェルネスバレーヘルスケア産業振興ワーキンググループの委員として参加し、ウェルネスバレー地域の医療・福祉の発展に協力しています。ヘルスケア産業振興ワーキンググループでは企業と連携をし、介護ロボット及びリハビリ機器の実証実験を進めています。

(8) 実習生の受け入れ

今年度はコロナ禍以降、はじめて実習生を通所リハビリテーションで受け入れました。

(9) PR活動

透明性が高く、地域に開かれた施設であるために当施設のサービス内容や日々の取り組みを地域の方々に広く情報発信する手段として年4回ルミナス通信の発行、ホームページの更新に努めました。

①ルミナス通信

発行回数：年4回

配布場所：市保健センター、市内の公民館、市内医療機関等

発行部数：計1400部

発行号数	発行日	内容
第85号	令和4年4月1日	食べる楽しみを大切に ルミナスのご利用者にインタビュー 転倒予防の取り組み
第86号	令4年8月1日	熱中症予防 ミニ運動会、お茶会 ご利用者の趣味の紹介
第87号	令和4年10月1日	感染対策の更新 正社員登用制度 テラス園芸
第88号	令和5年1月1日	新年のあいさつ 厨房の紹介

②ホームページ

施設の取り組み及び、新型コロナウイルス感染症対応マニュアル等をホームページで発信しました。ホームページの年間閲覧件数は3年度8,364回に対して今年度は8,559回と195回伸びました。職員採用にも役立っておりホームページの求人サイトから数件応募いただきました。

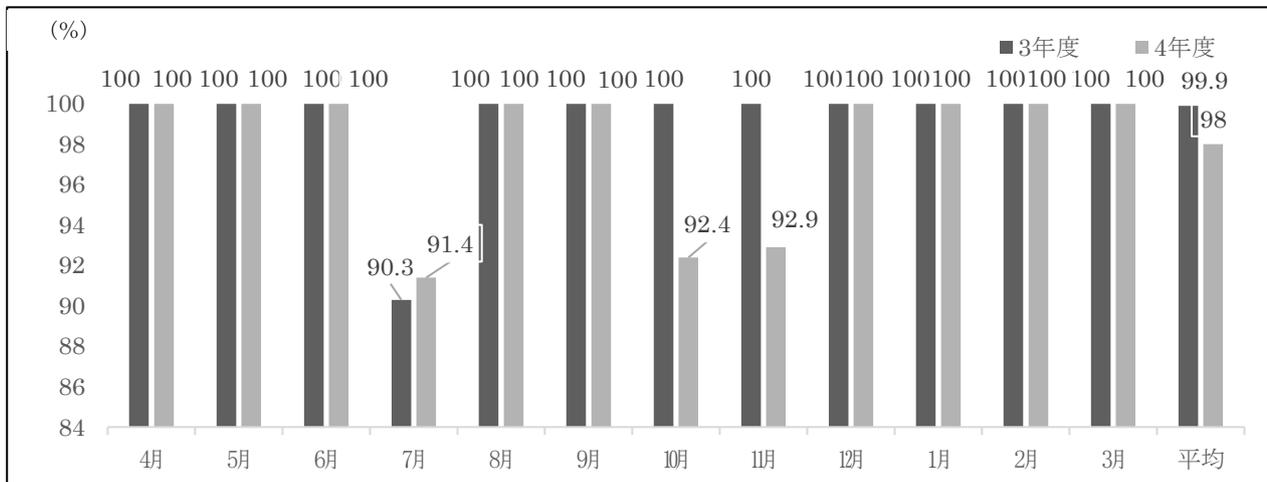
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
閲覧 件数	791	780	734	702	595	657	616	705	646	872	643	818	8,559

6. 認知症高齢者グループホーム・ルミナス大府

利用者の意志及び人格を尊重し、有する能力に応じた日常生活を支援し、家庭的な環境づくりと、住心地の良いホームの中で楽しく生活して頂けるよう努めました。

(1) 入居者状況

①各月入居率（3年度 99.9%）



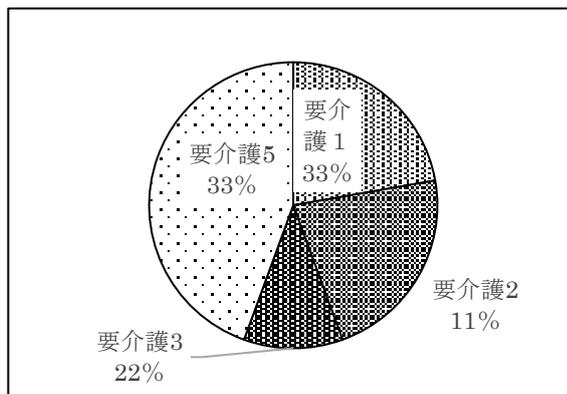
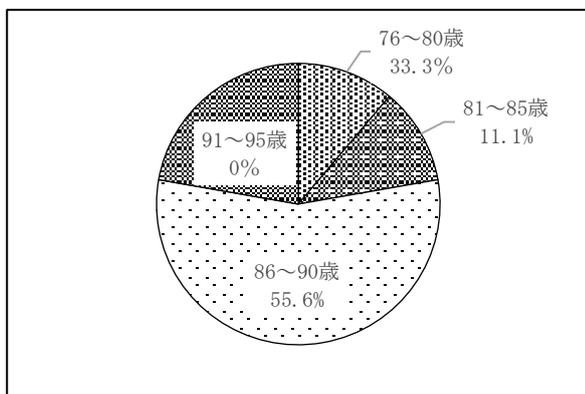
年間平均の入居率は98%でした。退所は7月・10月・11月に1名ずつありましたが、併設の老人保健施設、協力医療機関等と連携し長期間部屋を開けることなくスムーズに新規入居を受け入れることができました。

②入居者年齢

平均年齢 84.4 歳（令和3年度 86.7 歳）

③介護度別

平均介護度 2.88（令和3年度 3.22）



平均年齢は 84.4 歳でした。昨年と比較して少し若返っています。平均介護度は 2.88 でした。

(2) 個別ケアの充実とサービスの質の向上

・季節の行事

月	活動内容
4月	花見(個別での散歩)
5月	パン作り・魚釣り大会

6月	パン作り・たこ焼きパーティー
7月	七夕会（デザート作り）
8月	コロナクラスターのため行事中止
9月	敬老会
10月	焼肉パーティー・ハロウィンパーティー
11月	
12月	グループホームクリスマス会（ケーキ作り） グループホーム餅つき（鏡もち作り）
1月	新年会
2月	節分（豆まき・恵方巻き作り） おこしもの作り・お彼岸のおはぎ作り
3月	いちご狩り（半田市野園芸）
その他	誕生会（入居者毎に実施） 随時散歩

- ・毎月のスタッフ会議時、事故防止についての話し合いを行いました。
- ・2ヶ月に1度身体拘束委員会を実施し、スタッフ会議時に勉強会を行いました。
- ・計画作成担当者を中心にスタッフ間で個別支援内容を共有しケアの充実を図り、状態変化時には確実に見直しを行いました。

（3）家族との連携

- ・3ヶ月毎の家族会はコロナウイルス感染対策上、開催はできませんでした。家族面会時にスタッフは家族と積極的にコミュニケーションをとりました。
- ・ご利用者の状況は電話又はメール、お手紙で生活状況の報告をしました。
グループホーム新聞を年5回発行し、ご家族へホームの様子を見て頂きました。

（4）主治医との連携

- ・4月1・15日、5月6・20日、6月3・17日、7月1・22日、8月1・19日
9月2・16・30日、10月14・28日、11月11・25日、12月9・23日、1月6・20日
2月3・17日、3月10・24日 計25回の訪問診療で状況報告をしました。
- ・入居者の体調不良時には、電話連絡及び指示を仰ぎ受診又は往診して、指示を頂きました。

（5）その他

- ・運営推進委員会
5月・7月・9月・11月・1月・3月
推進委員メンバーとご家族へ手紙でグループホームの状況を報告しました。
- ・防災訓練
老人保健施設協力の防災訓練は連絡のみ実施し、グループホームでの防災訓練は11月29日・1月22日・3月14日に日中・夜間等を想定し3回実施しました。
訓練後は参加者全員で反省会を開きました。

3. 大府センター拠点

【事業全体について】

令和4年度においては、社会福祉法人仁至会及び認知症介護研究・研修センターの理念を念頭に、認知症施策推進大綱に基づく施策及びセンター運営事業の実施に係る厚生労働省老健局長通知を踏まえて研究事業、研修事業、普及啓発・情報発信、若年性認知症支援の4つの使命を着実に果たすとともに、愛知県の委託事業についても事業計画に基づき取り組みました。

また、事業の推進に当たっては、センター各部門の円滑な連携を図るとともに、コロナ感染対策に留意しながら取り組みました。

1. 認知症介護に関する研究事業

令和4年度においては、以下のとおり、厚生労働省の老人保健健康増進等補助事業1課題を中心に、文部科学省科学研究費補助事業2課題、センター運営事業による5課題の研究に取り組むとともに、研究成果を広く介護関係者に周知しました。

(1) 競争的資金による研究事業

1) 厚生労働省老人保健健康増進等補助事業

「市町村における若年性認知症支援施策の促進に関する調査研究」について、以下の3つの構成で実施し、結果を報告書にまとめました。

- ①市町村における若年性認知症施策の促進を図ることを目的に、各種既存の施策の活用方法や若年性認知症支援コーディネーター（以下「支援コーディネーター」という。）との具体的な連携内容等について明らかにするため、市町村の行政担当者、地域包括支援センター管理者、認知症地域支援推進員、支援コーディネーターを対象にアンケート調査を実施するとともに、その内容を踏まえ手引書を作成した。
- ②支援コーディネーター設置事業の効果と課題の経年変化を把握し、可視化することを目的に、都道府県・指定都市の若年性認知症施策行政担当者（以下「行政担当者」という。）と支援コーディネーターを対象にアンケート調査を実施した。
- ③我が国の若年性認知症施策に関する課題や今後の方向性について検討することを目的に、若年性認知症の本人や家族介護者、有識者、支援者から意見を聴取し整理した。

2) 文部科学省科学研究費補助事業

以下の研究課題について取り組みました。

- ①感情表現が精緻に制御された音声刺激による認知症者の感情理解機能の解明
（分担研究）
- ②ロジックモデルを用いた高齢者施設のケア文化の指標の開発
（分担研究）（継続）

(2) 厚生労働省センター運営事業費による研究

以下の研究課題について取り組みました。

- ①介護サービス事業所等における認知症者の社会参加活動を促進するリハビリ

テーションプログラムに関する研究（継続）

- ② ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究（継続）
- ③ 情報共有システムの活用による若年性認知症支援コーディネーターの活動状況把握と課題分析に関する研究（継続）
- ④ 認知症ケアにおけるスーパーバイザーの行動特性の開発に関する研究
- ⑤ 認知症ケアレジストリ研究（3センター協同）（継続）

（3）研究成果の報告

以下のとおり、関係者に対して研究成果の報告を行いました。

① 第20回認知症ケアセミナーの開催

令和3年度に実施した研究事業の5課題について、研究成果を報告しました。

- ・令和4年9月27日（火）ウインクあいち
- ・参加者数 116名

② 認知症介護研究・研修3センター合同研究成果報告（当センター担当）

東京・仙台・大府の3センターが、令和3年度に実施した研究9課題について、成果報告をDCネットでオンデマンドにより配信しました。

- ・配信期間：令和4年10月24日（月）～12月23日（金）
- ・視聴申込者数 1,106名

2. 認知症介護等に関する研修事業

（1）認知症介護指導者養成研修（厚生労働省の指定研修）

認知症介護基礎研修又は認知症介護実践研修の企画・立案に参画し、講義、演習、実習を行うことができる能力を身に付けるとともに、介護保険施設、事業所等における介護の質の改善について指導し、自治体等における認知症施策を推進することができる者を養成することを目的として平成13年度から実施しており、令和4年度においては集合・オンラインとのハイブリットにより、3回実施しました。

- ・第1回 令和4年5月30日（月）～令和4年7月29日（金） 9名修了
- ・第2回 令和4年8月29日（月）～令和4年10月28日（金） 10名修了
- ・第3回 令和4年11月28日（月）～令和5年2月3日（金） 14名修了
- ・受講者数 計画：45名 実績：33名（対計画：▲11名）

（2）認知症介護指導者フォローアップ研修（厚生労働省の指定研修）

日々進歩している最新の認知症介護技術や知識を一定期間ごとに認知症介護指導者に伝達し、第一線の介護従事者が最新の認知症介護技術を的確に修得できる体制を整えることを目的として、認知症介護指導者フォローアップ研修を2回実施しました。

- ・第1回 令和4年7月14日（木）～16日（土）、9月16日（金）、10月14日（金）
※オンラインで開催 5名修了
- ・第2回 令和4年11月14日（月）～18日（金） ※集合で開催 5名修了
- ・受講者数 計画：30名 実績：10名（対計画：▲20名）

(3) パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング(DCM)法研修

平成15年度から17年度まで「老人保健健康増進等事業」として、英国ブラッドフォード大学で開発されたケアの質を観察・評価する「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」の有用性と普及の研究を実施し、その研究成果をもとに、日本での普及活動の拠点として、毎年「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」を実施しており、今年度も以下のとおり実施しました。

[基礎コース]

- ・第2回 令和4年9月29日(木)～10月1日(土) ※集合で開催
- ・受講者数 計画：24名 実績：16名 (対計画：▲8名)
※第1回・第3回は、大府センターの共催で特定非営利活動法人シルバー総合研究所がオンラインで開催

[上級コース]

- ・令和5年2月25日(金)、3月3日(木)、4日(金) ※オンラインで開催
- ・受講者数 計画：10名 実績：5名 (対計画：▲5名)

(4) その他の研修事業等

1) スーパービジョン実践研修

認知症ケア現場の人材育成技法であるスーパービジョンについて、ロールプレイ等の演習を通して実践的に学ぶ研修会を、オンラインで開催しました。

- ・日程 令和4年10月3日(月)
- ・受講者数 48名

2) 研究活動継続支援プログラム

認知症介護指導者を対象に、ケア現場における課題解決に向けた研究活動を支援するもので、隔月の全体研究会と個別指導を組み合わせオンラインで実施しました。(最終的に認知症ケア学会で発表を行う予定)

- ・全6回(6月、8月、10月、12月、2月、5月)
- ・受講者数 4名

3) 認知症介護指導者スキルアップセミナー(3センター協同)

認知症介護指導者の継続的な学びの場の提供とスキルアップの支援を目的として、3センター協同で開催し、当センターでは「地域活動における指導者と行政との連携」について、指導者による実践報告を中心にオンラインで実施しました。

- ・日程 令和4年11月1日(火)
- ・受講者数 104名

4) 知的財産権セミナー

認知症介護指導者が著作物を適切に扱えるようになることを目的として、知的財産権・著作権にかかる基本的な考え方についてのセミナーを、オンラインで実施しまし

た。

(講師:国立長寿医療研究センター 産学官連携推進室長(知財管理支援室長))

・日程 令和4年11月7日(月)

・受講者数 45名

3. 認知症介護に関する啓発活動、情報発信、連携活動

(1) 啓発活動及び情報発信

1) 講演会・シンポジウムの開催

介護関係者をはじめ広く一般の方々にも「認知症」について知っていただくために、認知症フォーラム(第17回)を令和5年3月15日(水)にウインクあいちで開催し、併せて、オンデマンドでも配信しました。

・テーマ「認知症の人とのコミュニケーション」

・参加者数 101名、オンデマンド申込者数 約1,850名

※ 認知症ケアセミナー(第20回)については、「1. 研究事業(3)」記載

2) DCネット等による情報発信

認知症介護情報ネットワーク(DCネット)の活用や、認知症介護指導者大府ネットワーク及び日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークとの連携により、認知症介護に関する情報を発信しました。

(2) 認知症介護指導者大府ネットワーク等との連携活動

① 大府センターの認知症介護指導者養成研修修了生で組織する大府ネットワーク、および認知症ケアマッピング(DCM)法研修修了生で組織する日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークの研修会や総会等への参加・支援により更なる連携を図りました。

※令和4年度末時点の当センターの管轄(北陸・甲信・東海・近畿東・近畿西)における認知症介護指導者の数は900名、また、全国におけるDCMの基礎ユーザー及び上級ユーザーは1,849名を数えており、これらの団体の活動との連携は、当センターの運営上も重要であり、研修会や総会への参加・支援等により更なる連携を図りました。

② 認知症介護実践者等養成事業にかかる行政担当者や研修実施団体との情報交換会について、関係者間で情報共有と連携が図られるよう開催しました。

・日時 令和4年8月18日(木)

・参加者 54名

4. 若年性認知症に対する支援事業

(1) 全国若年性認知症支援センターの運営（国事業）

1) 若年性認知症コールセンターの運営

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・メール相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整を実施しました。

・令和4年度の件数 1,161件（対前年度 +49件）

2) 若年性認知症支援コーディネーター等に対する支援

① 相談支援

各都道府県・指定都市の施策担当者と支援コーディネーター、及び相談窓口の職員等に対して、相談支援を実施しました。

・令和4年度の件数 331件（対前年度 ▲34件）

② 支援コーディネーター研修

若年性認知症の人やその家族、企業等を支援するための施策の知識や相談支援のノウハウを習得するため、各都道府県・指定都市の施策担当者と支援コーディネーターを対象に、初任者研修とフォローアップ研修をオンラインで開催しました。

[初任者研修]

- ・研修日程 令和4年7月7日（木）～令和4年7月8日（金）
- ・受講者数 81名（行政：30名、支援コーディネーター：51名）

[フォローアップ研修]

- ・研修日程 令和4年11月8日（火）～9日（水）
- ・受講者数 89名（行政：23名、支援コーディネーター：66名）

③ 情報共有システムの運用

支援コーディネーターの業務の効率化・負担軽減、活動状況の可視化、支援事例を蓄積し活用、その他各種情報の共有を図ることを目的とした情報共有システムを引き続き運用するとともに、関係者に対する説明会を開催しました。

イ. 相談記録システム（電子カルテ方式の共通シートを使用しデータベース入力）

ロ. 支援事例共有システム（Webサーバーを使用し、支援事例を蓄積・共有）

ハ. 掲示板機能（研修会・資料等の情報について掲示板機能を活用して共有）

・年度末現在の利用者数 175名（行政：55名、コーディネーター：120名）

・説明会 4月27日（水）、5月30日（月）、6月2日（木）

参加者数 63名（行政：29名、コーディネーター：32名、他2名）

④ ネットワークづくり

上記の掲示板の活用、広報誌の発行により、支援コーディネーターの活動に資する情報を提供するとともに、行政担当者や支援コーディネーターとの意見交換会を開催し、情報共有・連携が図られるよう支援しました。

- ・広報誌「全国若年性認知症支援センターだより」を年4回発行
- ・行政担当者との意見交換会開催 令和4年5月25日(水)
- ・支援コーディネーターとの意見交換会開催 令和4年12月15日(木)

3) 若年性認知症の普及・啓発等の推進

- ・各事業を通じて、本人・家族はもとより、一般、専門職、若年性認知症の人を雇用する企業等に対しても普及・啓発を推進しました。
- ・大府センターで作成した「若年性認知症ハンドブック」「若年性認知症支援ガイドブック」等、若年性認知症支援に関する資料を全国の行政機関、認知症疾患医療センター、支援機関等へ配布しました。

(2) 愛知県若年性認知症総合支援センターの運営（愛知県事業）

愛知県の委託事業として、愛知県内に居住または就業する若年性認知症の人やその家族等の支援を行うとともに、若年性認知症自立支援ネットワーク事業を推進しました。

1) 相談支援

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・来所・訪問での相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関へ連絡調整しました。

- ・令和4年度の件数 1,119件（対前年度 +176件）

2) 自立支援ネットワーク事業

①会議等の開催

医療、介護、福祉、雇用等の関係者による若年性認知症自立支援ネットワーク会議及び早期相談支援に係る連携体制構築に向けたワーキングをオンラインで開催しました。

ア. 会議を2回開催

- ・令和4年7月27日(水)、令和5年2月17日(金)

イ. ワーキングを2回開催

- ・令和4年6月14日(火)、令和4年11月30日(水)

②研修の開催

支援担当者等の若年性認知症対応力の向上を図ることを目的とした「若年性認知症自立支援ネットワーク研修」をオンラインで開催しました。

- ・令和4年9月20日(火) 9:00～12:30
- ・対象：市町村の認知症施策担当者・地域包括支援センター職員等
- ・午前：初任者研修 178名参加、午後：フォローアップ研修 149名参加

③一般向け啓発セミナーの開催

大府市と連携して若年性認知症セミナーを開催しました。

- ・令和5年1月18日(水) 14:00～16:00

- ・大府市役所 多目的ホール 参加者 75 名

④ニーズ把握

豊田市の家族交流会に支援コーディネーターが参加し、本人・家族から意見や要望を聴取しニーズを把握しました。

3) あいちオレンジタウン構想に係る事業

愛知県が推進する「あいちオレンジタウン構想」のアクションプランの一つとして、上記の自立支援ネットワーク会議・ワーキングと連動して、若年性認知症の人への早期相談支援体制づくりを推進しました。

- ・県内の認知症疾患医療センターとの連携策として、「連携シート」を作成のうえ、連絡・相談できる体制を構築

4) 啓発事業

愛知県総合支援センター啓発リーフレットや若年性認知症のご本人・ご家族・支援者・企業向けのリーフレット等を県内の疾患医療センター・関連医療機関・障害者施設等へ配布しました。

5. 愛知県身体拘束廃止推進事業 権利擁護推進員養成研修（愛知県からの委託事業）

愛知県からの委託を受けて、介護施設における身体拘束廃止の取り組みをより効果的に推進させるため、施設内で指導的立場にある職員を対象に講義・演習・自施設実習を通じて、高齢者虐待防止法の趣旨の理解及び利用者の権利擁護の視点に立った介護に関する実践的手法を習得させ、介護現場での権利擁護のための取り組みを指導する人材を養成しました。

- ・日 程 令和5年1月12日(木)、13日(金)、2月22日(水)
- ・場 所 大府市役所 多目的ホール
- ・受講者数 70名（施設長等35名、介護主任等35名）

4. サンサン大府拠点

I. 施設 の 状 況

1 指定障害福祉サービス開始日：平成20年4月1日

平成18年4月1日施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法に改正）に基づく新体系移行に伴い、就労移行支援（一般型）事業、就労継続支援（B型）事業のサービスを開始しています。

平成28年3月31日をもって就労移行支援（一般型）事業を廃止しました。

2 指定障害福祉サービス(事業)名及び利用定員

- ・ 就労継続支援（B型）事業〔利用定員：39人〕

一般就労が困難な方等へ就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて社会的自立に向けた、知識や能力の向上に必要な福祉サービスを提供します。

3 利用対象者（18歳以上）

- ・ 身体障がい者(肢体不自由、視覚、聴覚・言語、内部障がい)
- ・ 知的障がい者
- ・ 精神障がい者（発達障がい者を含む）
- ・ 難病等対象者

4 サービス提供職員の配置〔1日当たりの平均実利用者数 37.4名〕

※ 常勤換算基準数は、実利用者：職業指導員&生活支援員 = 7.5：1
(令和5年3月末日現在)

事業所名 職 種	職員数 (兼務は主とした職種を優先に表記)	【 常 勤 換 算 数 】					
		専 従		兼 務		計	基準数
		職員	非常勤	職員	非常勤		
施設長 管理者	1	1.0 (職業指導員兼務)					
サービス管理責任者	1	1.0	—	—	—	1.0	1.0
職業指導員	3	1.0	1.1	0.5	—	2.6	5.0
生活支援員	6	2.0	2.3	—	—	4.3	
目標工賃達成指導員	1	—	1.0	—	—	1.0	1.0
事務員	1	—	—	—	—	—	—
送迎運転手	2	—	—	—	—	—	—

5 就労活動種目

項目	品目・製品	摘要	売上	対前年度比
印刷	一般印刷、封筒印刷、名刺・ハガキ・カード印刷、封入～発送作業 他	官公庁、民間企業、各種団体、個人 他	10,729 (千円)	110%
下請作業	自動車部品等のシール貼り及び組み付け、ゴムはめ、紙折り、花壇整備 他	大府市内外各事業所、(株)げんきの郷 他	4,480 (千円)	118%
自主製品	ダンボールコンポスト、ペットボトルオープナー 他	当施設、(株)げんきの郷 売店 他で販売	3,200 (千円)	675%
委託販売	無添加石けん、化粧石けん、大府市指定ごみ袋	(ごみ袋は当施設のみで販売)	2,294 (千円)	712%
その他	自転車整理(施設外支援) ルミナス ベッドメイク 他	大府市身障者協会(共和駅) 他	1,016 (千円)	117%
計			21,719 (千円)	143%

- ・平成25年4月1日「障害者優先調達推進法」が施行されています。行政機関等(学校関係含む)からの契約件数は62件、契約金額は約530万円。対前年度比で件数は6件の増(1%増)、金額は約298万円の増(228%増)でした。(活動種目全体の約24%の売上です。)
- ・大府市敬老会、大府市福祉・健康フェア等の大府市主催の行事は、規模を縮小して開催されました。大府市敬老会の記念品で、ペットボトルオープナーが採用されたことにより、就労支援事業全体の売り上げは回復傾向でした。
- ・令和4年度から大府市の指定登録を行い、大府市指定ごみ袋の販売を開始しました。熨斗付きの記念品等に加工して販売も行ってきました。

6 年間行事

月	行事等
4	お花見中止(施設内にて昼食のみ提供)
5	—
6	—
7	—
8	ルミナス夏祭り中止(バザー出店中止)
9	大府市福祉・健康フェア(規模縮小で開催)、名フィル福祉コンサート(少人数での参加依頼だったため不参加)
10	防災訓練(2回)、イオン東浦イエローシートキャンペーン中止、
11	障害者就職面接会(開催されたが当施設から参加者ゼロ)
12	年末食事会(施設内と研究・研修センターにて昼食、お楽しみ抽選会を実施)
1	お抹茶の会中止
2	—
3	—

7 各種会議（毎月実施）

- ・ 工賃評価委員会… 利用者工賃の評価、見直し 他。
- ・ 指導委員会… 利用者の援助、支援内容の検討 他。
- ・ 職員会議… 施設運営と経営改善の協議 他。

Ⅱ. 利用者の状況

1 定員及び現員〔登録者〕（令和5年3末日末現在）

定員	現員〔登録者〕
39	46

2-1 月別現員数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
初日の現員数	48	48	48	48	48	49	49	49	48	48	48	47
入所(通所)数					1							
退所数								1			1	1
月末の現員数	48	48	48	48	49	49	49	48	48	48	47	46

- ・ 退所者は3名（1名は自己都合、2名は他施設を利用のため）

2-2 相談・見学、実習者の延べ人数

※ 相談・実習の（ ）の数値は利用に結びついた方

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談・見学	1	1	10	1	2	0	0	0	0	0	1	0	16
実習	1	1	1	0	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)	0	5(2)

- ・ 2月の実習から新規利用に結び付いた方は、令和5年4月から利用開始。
- ・ 6月は、もちのき特別支援学校の中・高等部の親御さんがグループで見学に来ました。

3 障害者手帳の内訳

(1) - 1 身体障害者手帳

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
現員〔登録者〕	11(1)	7(3)	5(1)	1	0	1	25(5)

- ・（ ）の数値は知的障がいがある方

(1) - 2 上記の内訳

障害別	肢体	視覚	聴覚	内部	計
現員〔登録者〕	20	3	0	2	25

(2) 療育手帳

障害等級	A	B	C	計
現員〔登録者〕	7 (1)	10 (1)	7 (3)	24 (5)

・()の数値は身体障がいがある方

(3) 精神障害者保健福祉手帳

障害等級	1級	2級	3級	計
現員〔登録者〕	0	1	1	2

(4) 難病

脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、球脊髄性筋委縮症、筋緊張性ジストロフィー（2名）、パーキンソン病の計6名。

（身体障がい5名、身体障がいと知的障がいの重複1名）

4 性別・年齢

区分 性別		年 代 別							計 (比率)
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	
現員 〔登録者〕	男	0	7	6	6	9	4	1	33 (72%)
	女	0	4	3	1	1	2	2	13 (28%)
	計	0	11	9	7	10	6	3	46 (100%)

5 市町別

市 町	人 数	市 町	人 数
大府市	23	東浦町	10
知多市	7	阿久比町	2
東海市	3		
知立市	1		
常滑市	0	計	46

6 通所方法

通所方法	人数
送迎車利用(市外)	10
〃 (大府駅西)	3
〃 (共和)	3
〃 (長草)	0
〃 (市内自宅、その他)	8
自家用車	1
自転車・徒歩・循環バス	11
家族送迎	10
福祉有償運送(他施設)	0
計	46

7 利用の経路

経路	人数
仁至会授産所から継続	4
特別支援学校、専門学校	13
障がい者相談支援センター	15
各市町	6
名古屋市リハビリテーションセンター	0
障害者生活支援センター(らいふ)	3
障害者就業・生活支援センター(ワーク)	0
他事業所から引き継ぎ	1
本人・家族、その他(東和荘、ルナス、知人紹介他)	4
計	46

8 一般就労

	事務系	軽作業	その他(在宅含む)	計
平成30年度	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0
令和2年度	0	2	1	3
令和3年度	0	1	0	1
令和4年度	0	0	0	0
計	0	3	1	4

・令和4年度の一般就労人数は0名でした。

9 利用者工賃向上計画(平均月額)

	令和元年度 実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
愛知県	16,888	—	16,822	—	17,653	—	集計中
当施設	14,143	15,981	15,376	15,378	15,214	15,384	15,719
(参考:全国)	16,369	—	15,776	—	16,507	—	集計中

・実績は、①1ヶ月の途中で入退所をした利用者、②1ヶ月の利用が極端に少ない利用者は除いています。

【参考】 実工賃（利用者が1ヶ月に1日でも利用した時の工賃）

	年度別平均						
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
全体の月額（円）	529,625	539,557	624,408	632,613	676,072	685,373	713,772
対象者（人）	34.8	35.2	41.3	48.3	47.2	48.0	47.5
月額（1人当たり）	15,205	15,343	15,107	13,111	14,334	14,279	15,027

- ・ 最高月額：68,900円、最低月額：900円（特別手当を含む）

10 利用率

※ 定員39名に対する1日当たりの利用率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
令和2年度	96.2	99.7	97.9	97.9	94.1	93.1	91.5	93.8	94.6	91.8	96.2	98.5	95.4%
令和3年度	95.9	101.0	100.3	97.9	93.6	98.3	103.1	103.1	96.2	96.2	98.5	99.2	98.8%
令和4年度	96.9	96.2	97.4	90.5	88.7	95.4	100.3	98.2	99.5	94.9	97.7	94.9	95.9%

- ・ 在宅支援、送迎の配慮等により、新型コロナウイルスの影響をあまり受けずに、利用率を確保することができました。

Ⅲ. その他

1 体験学習等の受け入れ

- ・ もちのき特別支援学校（中学部） 就労チャレンジ体験（7月 延べ6名）
- ・ " " " "（9月 延べ5名）
- ・ " " " "（12月 延べ10名）
- ・ " "（高等部） 就労体験（9月 延べ14名）
- ・ " " " "（12月 "）
- ・ " " " "（1月 "）

2 施設外作業、施設外支援

・ 施設外作業【継続】

- ① 株式会社げんきの郷にて、花壇の草取り・水やり等の作業
（平成24年6月1日から取り組み開始。令和4年度は114日間実施）
- ② げんきの郷に出荷している個人事業者の鉢植えの水やり等の作業
（平成30年2月8日から取り組み開始。令和4年度は51日間実施）
- ③ 認知症介護研究・研修大府センターの花壇の草取り・水やり等の作業
（平成30年6月1日から取り組み開始。令和4年度は27日間実施）
- ④ ルミナス大府（老健）のベッドメイク
（令和2年2月1日から取り組み開始。令和4年度は136日間実施）

・施設外支援【継続】

共和駅駐輪場の自転車整理

(平成20年9月1日から取り組み開始。令和4年度は133日間実施

令和4年度で自転車整理作業から撤退のため終了)

3 新型コロナウイルス関連

- ・国及び愛知県の補助を受けて、職員を対象に4月から3月まで月2回程度でPCR検査を実施しました。

4 重度者支援体制加算

- ・令和3年度に、障害基礎年金1級を受給する利用者が9.8名いました。その結果として、令和4年度(翌年度)に重度者支援体制加算(1日25単位×全利用者)を取得することができました。

5 処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算

- ・令和4年2月より、上記3つの加算を申請し、職員の賃金改善に取り組みました。